御江戸圖説集覧

初輯

貴 9
54
出一〇五
根岸
一三一

国立国会図書館　タイトル『御江戸図説集覧』 請求記号 貴9-54
ガラス使用

秦地千萬戶只三百橋何如清八百士庶富而教

枕山厚

曹山文庫
根岸宗輔氏寄贈

国立国会図書館　タイトル『御江戸図説集覧』 請求記号 貴9-54
ガラス使用

国立国会図書館　タイトル『御江戸図説集覧』　請求記号　貴9-54

ガラス使用

天地ひらけ始まりより萬世を重ぬまどもかゝるゆゑなく
然るに近代もさらに此もつゝへ其實よりひろき武藏野の自
然の面なるはれん光りに繁昌するよろ川の民乃家居も
豊をつゝみて千八町にうちすゝり榮えゆくと聞こゝ
天長地久うぢまぬき我住国の事ハ其後も志らぬ通
ゆゑんも本以ありと隅田川の名所保まをさくり花雪山
の手等をまけて玉川の清きなかれに始ひ品川が新
海だら此底たらと書やの反古かきにつゝ見つゝむかし
此永祿の大江戸のうつし絵圖にハ名におふ武藏野と
以るときのさまをうつしたるを尾花のまゝ四歳

にひ其意も大きらにいらぬるものなりにおもはれ昔を
見るもちにまた寛永の大繪圖を此乃頃の板行
して今此世にうつへおばいまの此世のなりこの事
こゝきりぬく天上界に生を得るゆりひ此このし
こゝ家のうち四方此君たちのもちゆゑもおどろまれと
おましからさらんやされば此絵圖を摹しをもたひ櫻
木に此本せて冊子とし同好の人乃覧に具へんと云

嘉永五年癸丑春

橋本玉蘭齋識

武藏國の江戸は豊島荏原の二郡にかゝまり上古はすべて武藏野の内にて
はてもなくかぎりもしられぬ廣漠の野ともしなりされば其の境も定
ならざれど武藏野といへるは古は十郡に跨りて西は秩父郡東は海
北は河越南は向が岡都築が原に至るといへる江戸はその東北方
にて中古は中武藏江戸ともいへりこれによりて上古の事を考ふる
に仁徳天皇四十八年春戸田真人をして武藏國豊島郡に蒐世
むるに二頭の狐を得て帰り奏すといふとあり是江戸のはなり乃
事なるべしされば其の頃はこゝ狐狸のこゝ住ことまことに人跡
こえたまし原野なりしとおもひやるべし
平葉盛の哥に
武藏野を霧のはれまにいる後せば秋末遠き心地こそすれ

三

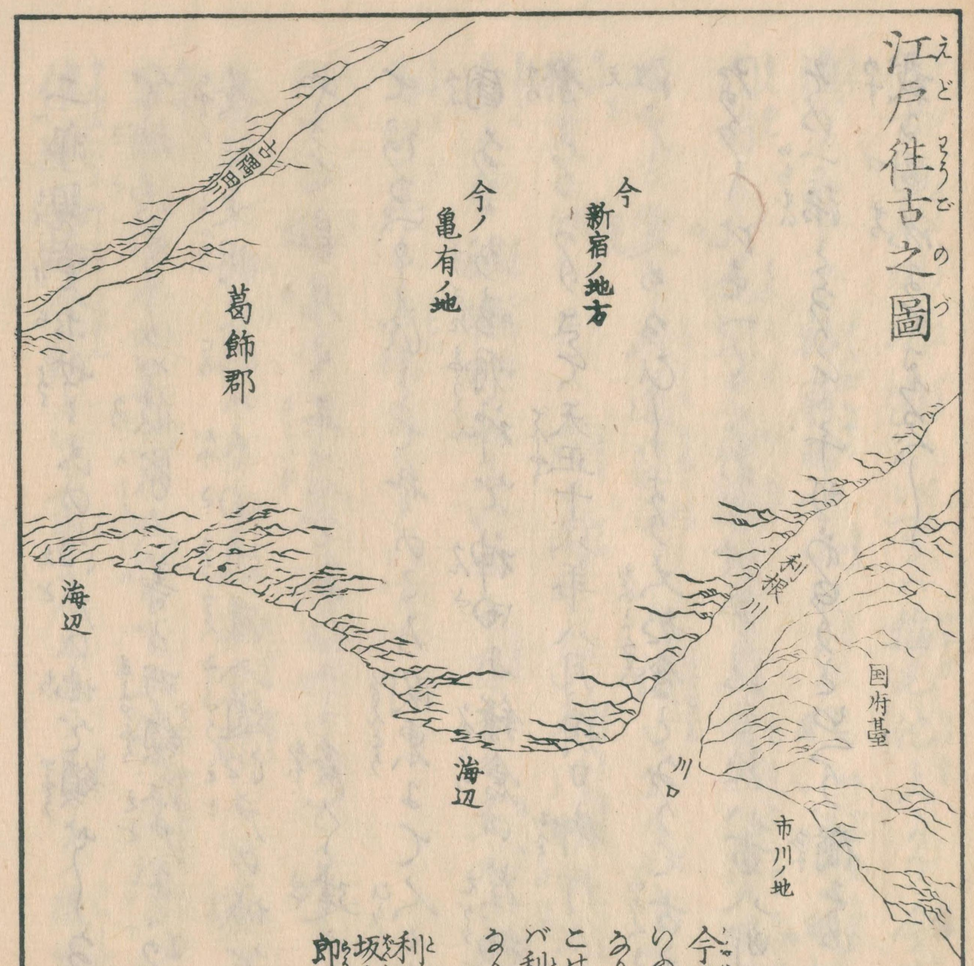
左衛門督通光の哥に
むさし野は行とも秋のはてぬなれいかなる風の末に吹らん
監命婦の哥に
武藏野は月の入るべき山もなし尾花が末にうる志らし雲
此餘武藏野を詠せし古歌あまたありぬべけれどことごとくはぐる
に遑あらず武藏野といへば渺々たるかぎりもなれ原野のこなりしと
おもひべしまた右に載せる和哥にあながちに江戸の地にはかゝらざるに
似たりといへども最原為家の歌に
むさし野はたゞや行すぎぬ隅田川遠き渡りに都こひつゝ
これらにても京師より東の國に往還するも此多くは此通りを通し
なるべければ江戸の地はおのづからなるべし

往古の奥州街道といへるハ稲毛池上より今の丸の内に出て本町の通りにかゝり旅籠町を北にとれ小伝馬町を通り浅草観世音乃門前より花川戸押揚を歴て古三谷古隅田川といふにかゝりて往来せしとぞ此道筋正しき據はなけれどもさる事ありしなるべし又此るにも昔ハ霞が関および平川町の方より浅草門前なる次までむかしな旅宿町ありいまに存せる並木の六地蔵石燈籠は往古の馬駕籠の立場なりといへり

江戸の地をかるく荏土ともかけるをみれば荏の多く生ずる地にかく名付しならん荏原郡といふ名のあるも此故なりと云

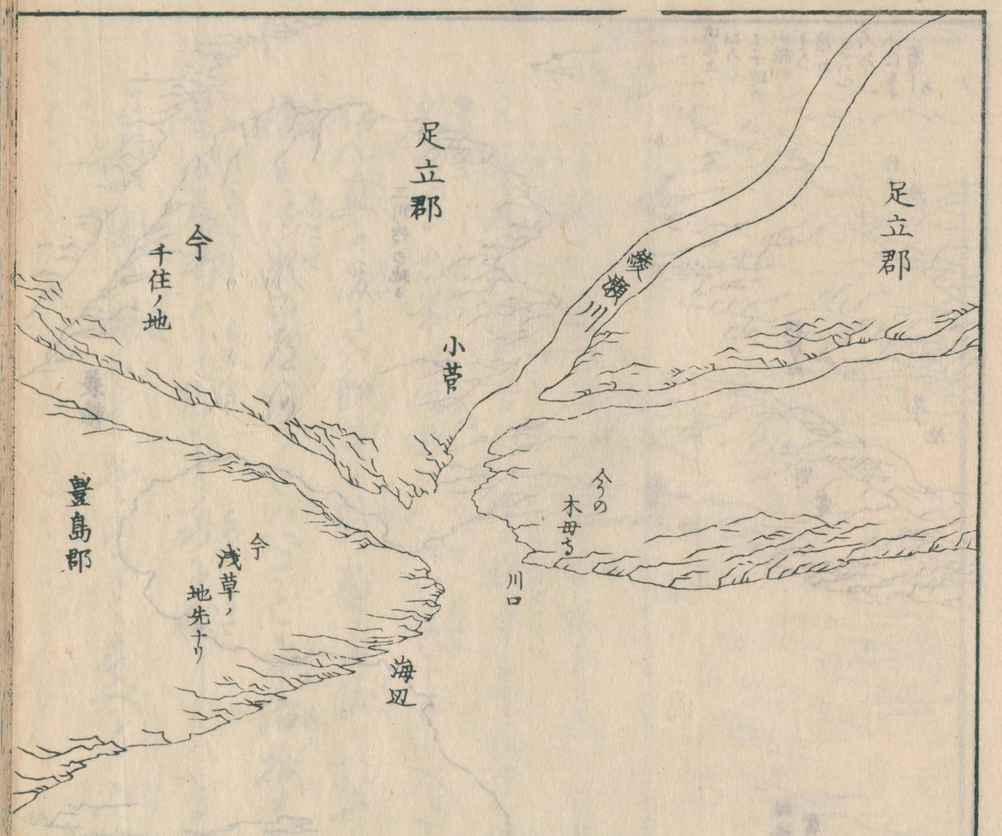
東鑑ニ治承四年九月廿四日丁丑遣ニ使一被レ召ニ江戸太郎重長上依ニ景親之催一遂ニ石橋合戦一といふ事見えたり是より後重長が子江戸太郎忠重二郎親重に世々此の江戸の地を領せしなりその後上杉家当国を治領せしが彼家人等が所領江戸になさありしとみえたり長禄文明の頃ハ太田道灌入道江戸の城を築て居住ありしかバやがて家居も年月をおひて多く建つゞきたれバ鎮守の為にとてなるべかりじとて此のころ関東にて人々の信仰ありし安房國なる洲崎明神を神田に鎌倉の荏柄天神を湯島に斎き祭れるなりさて天正十八年八月朔日御打入ありしより四里四方を江戸と定めたまひしより大都会となりて古京坂の盛なりしといへどもなかなか比をつくもあらずそれより八百八町ありしなれども今ハその一倍となりて千町あまりといへり猶その沿革の凡きハつぎ載る図説にてしるべし

江戸往古之圖



今總寧寺のうしろの山を城山といふこれハ安房国里見義廣の城跡なりと云伝ふ国府臺の軍といふハこれ所のことなり山上よりゐんかろせバ利根川の流ふのぞミて要害の地なり

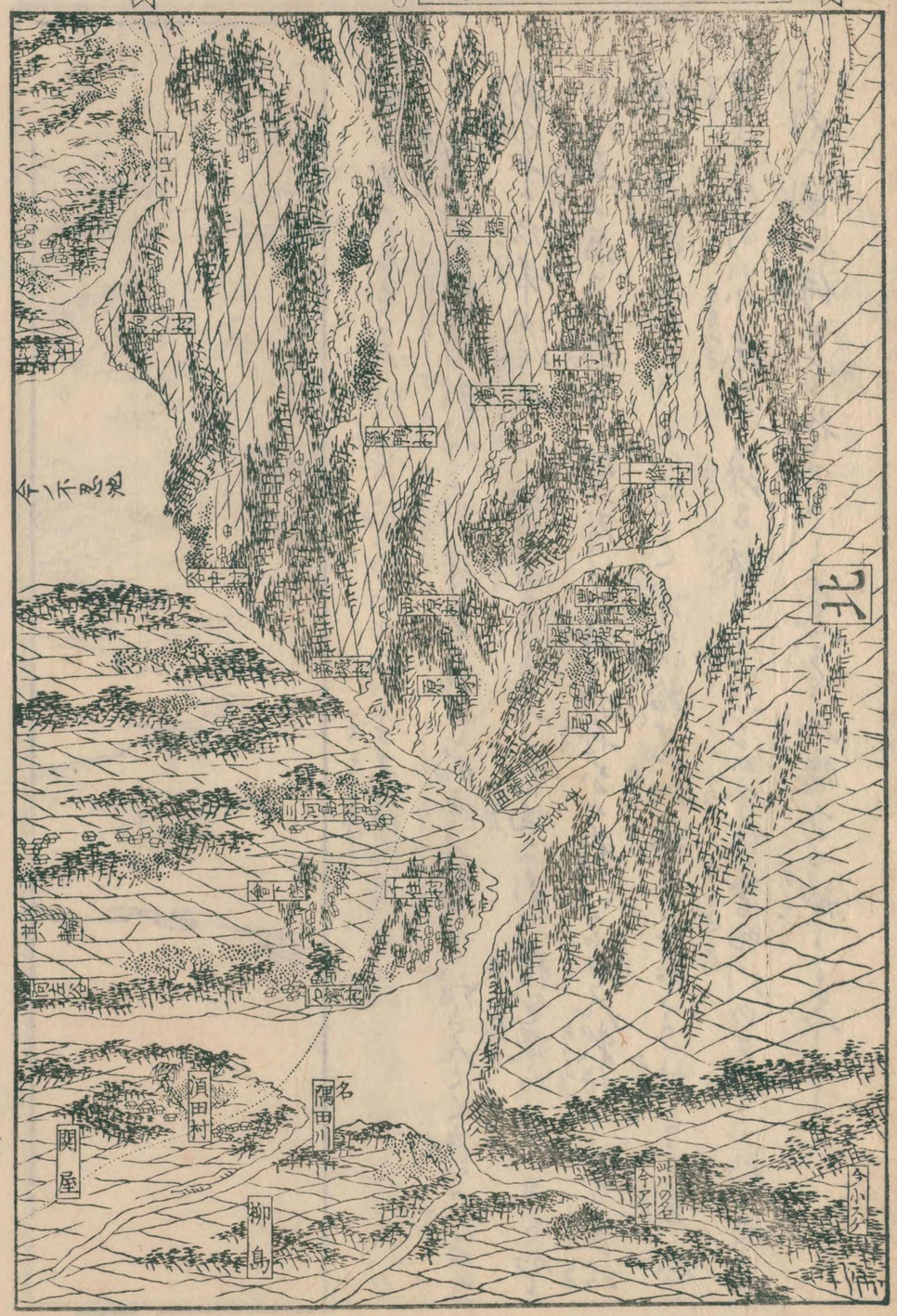
利根川ハ武藏下總のさかひにて坂東一の大河なり俗に坂東太郎といふ



綾瀬川の末より東へながるゝ中川への一派あり今ハ小溝なれども土人お傳へてこれを古隅田川と呼ぶり今ハこの溝を足立葛飾の堺とせり

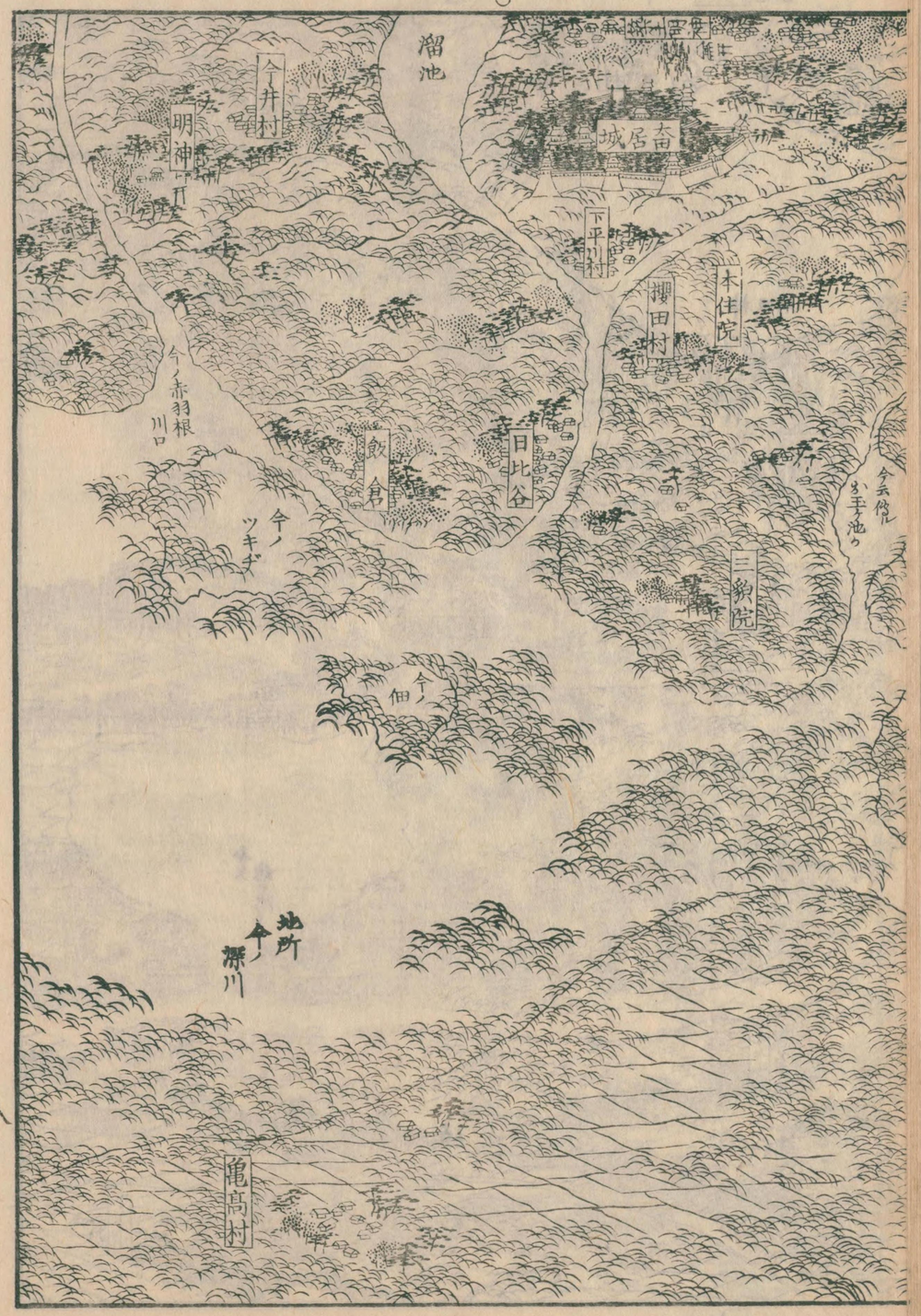
右に圖せるところ往古の地誌なれば今甚詳なることを得て知るべからずといへども
も長元の比河内守頼信上野守にてありし時平忠常を討たんとて兵を引ゐて
行向ふに右常が住所ハ入海の遥にさし入たる向にあり陸を廻らば七八日もかゝ
らん直に渡さば即日に攻つ為し渡りに舟なければいづせん頼信なるを安此
海に渉瀬の所なりといへること宇治拾遺物語にいへるとより按に千葉忠
常が居所ハ下総なり此に渡しといへるハ今の墨田川のことにしあるべし
されハ圖に併せて其のかゝ其べきく入海なる瀬とすべし

永禄年間江戸圖



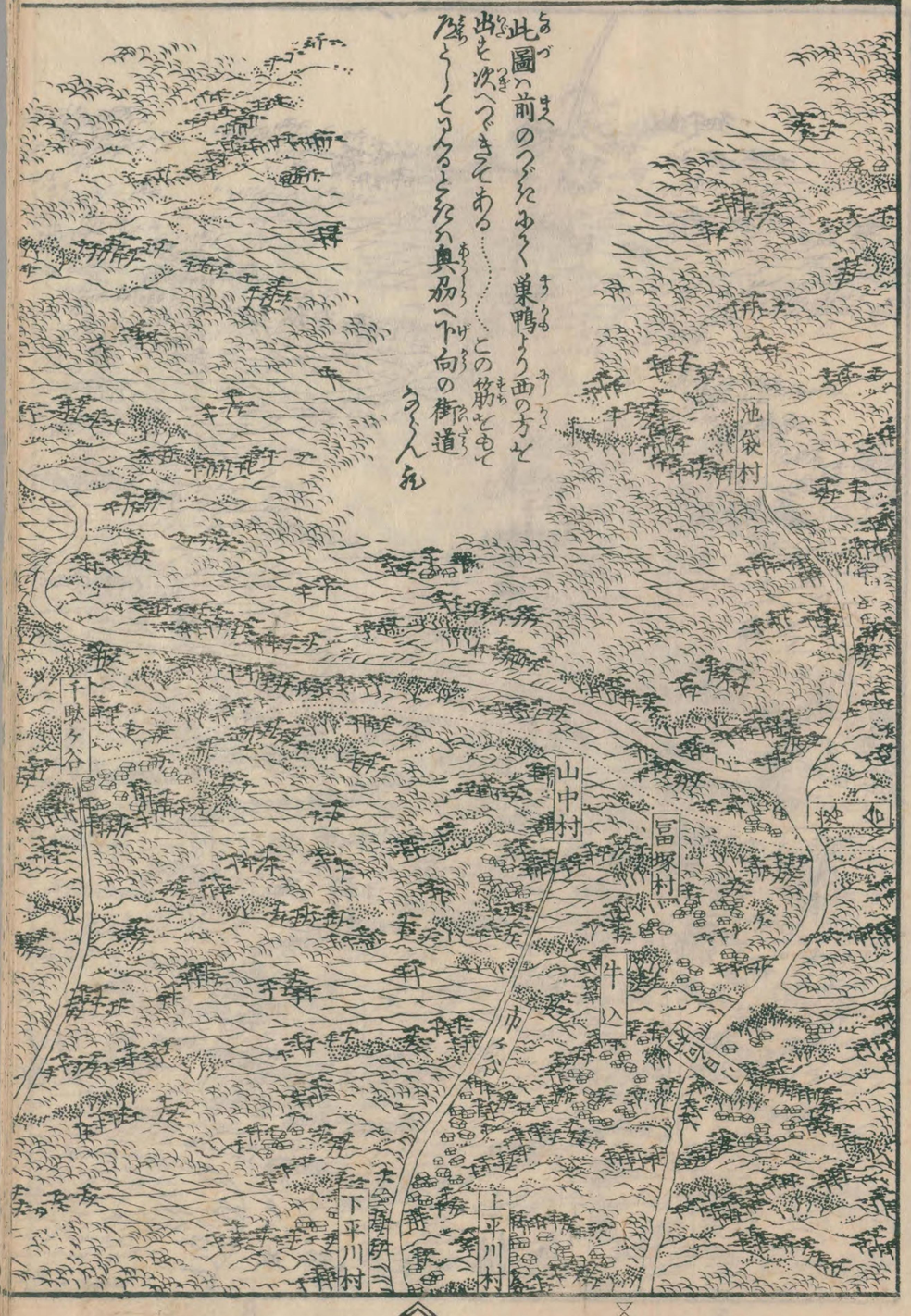
国立国会図書館　タイトル『御江戸図説集覧』 請求記号 貴9-54

ガラス使用

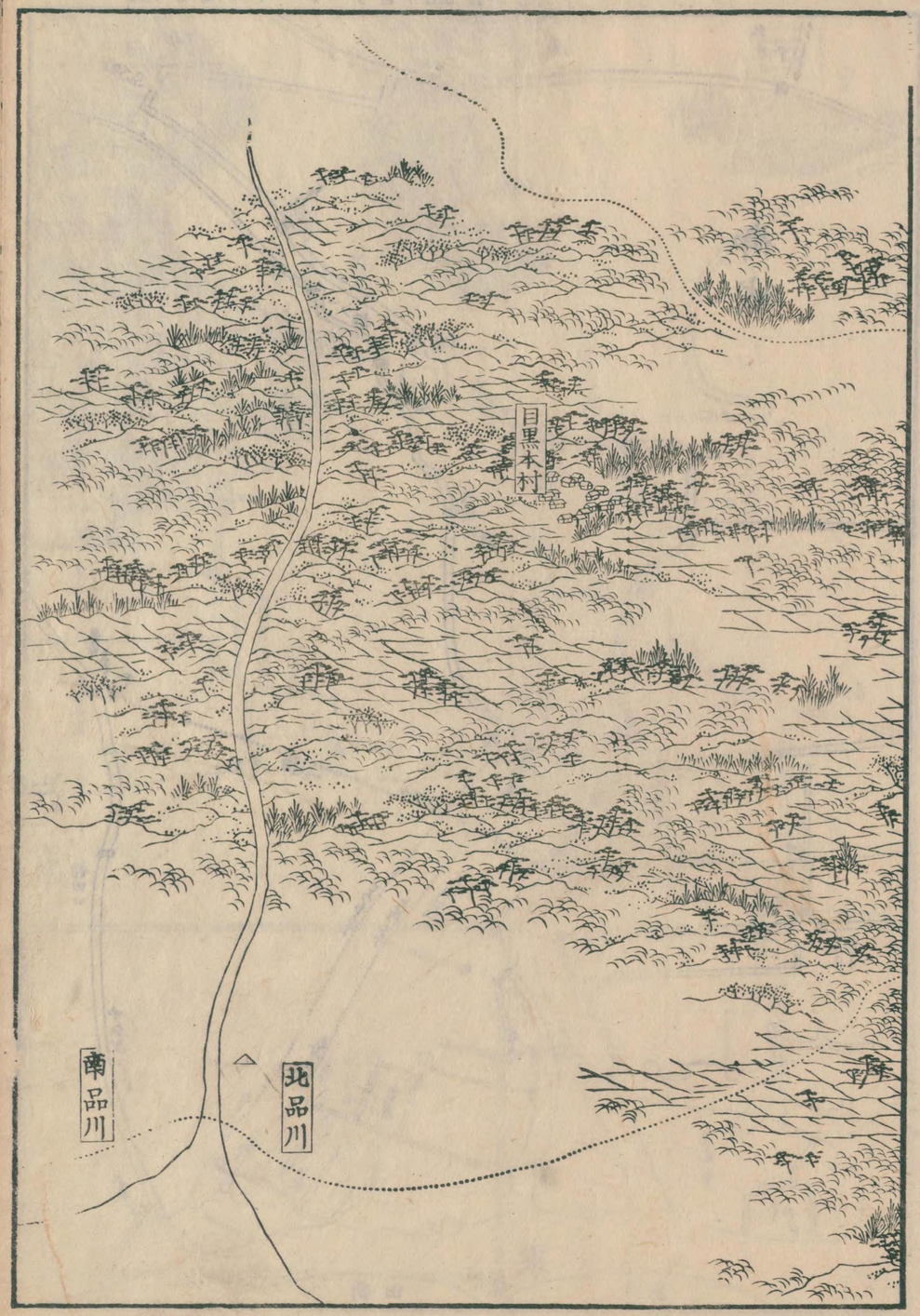


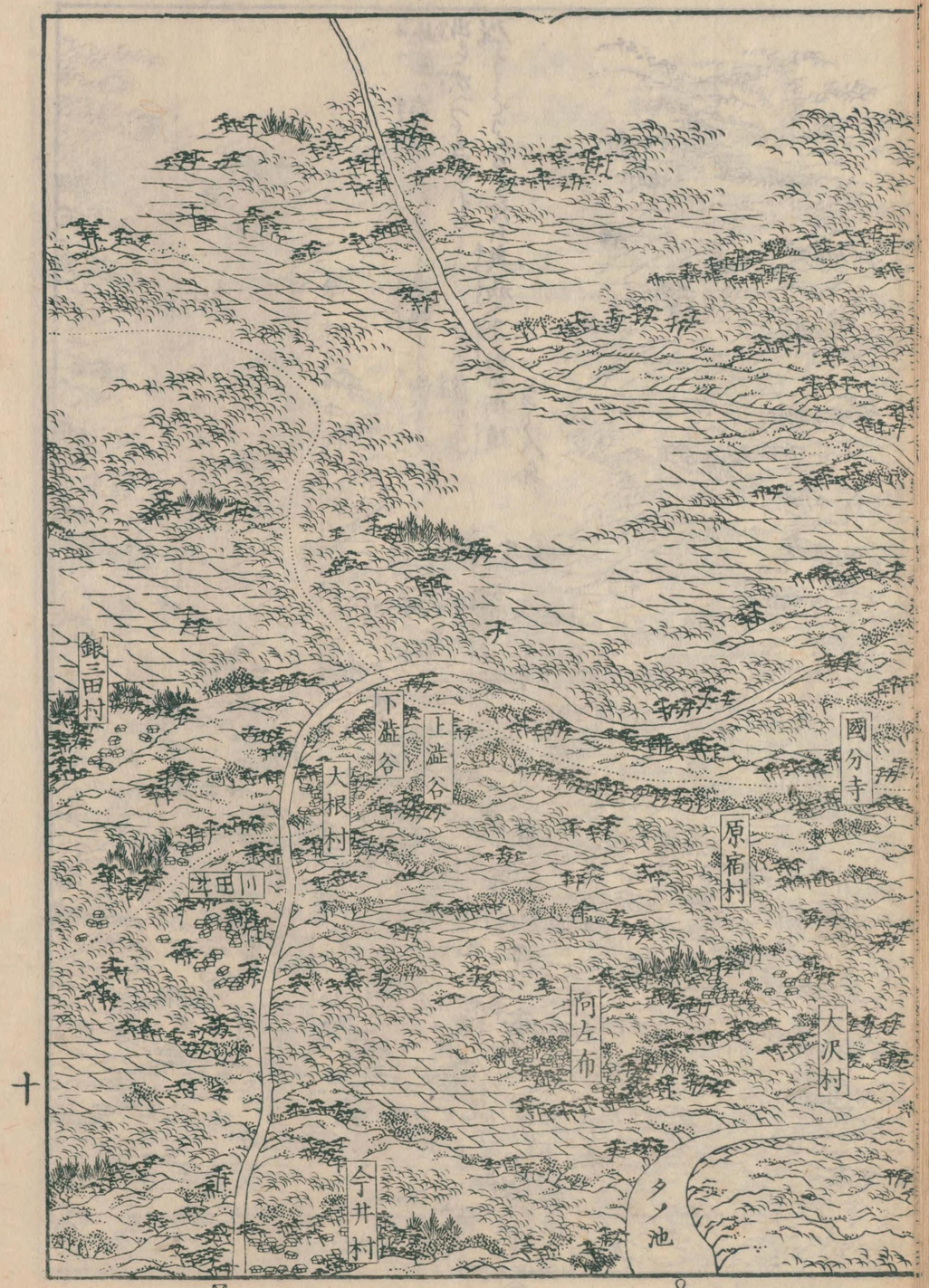
国立国会図書館　タイトル『御江戸図説集覧』 請求記号 貴9-54
ガラス使用

是ゟ未ハ西の方の上を引下つきて出て圖之川の谷印



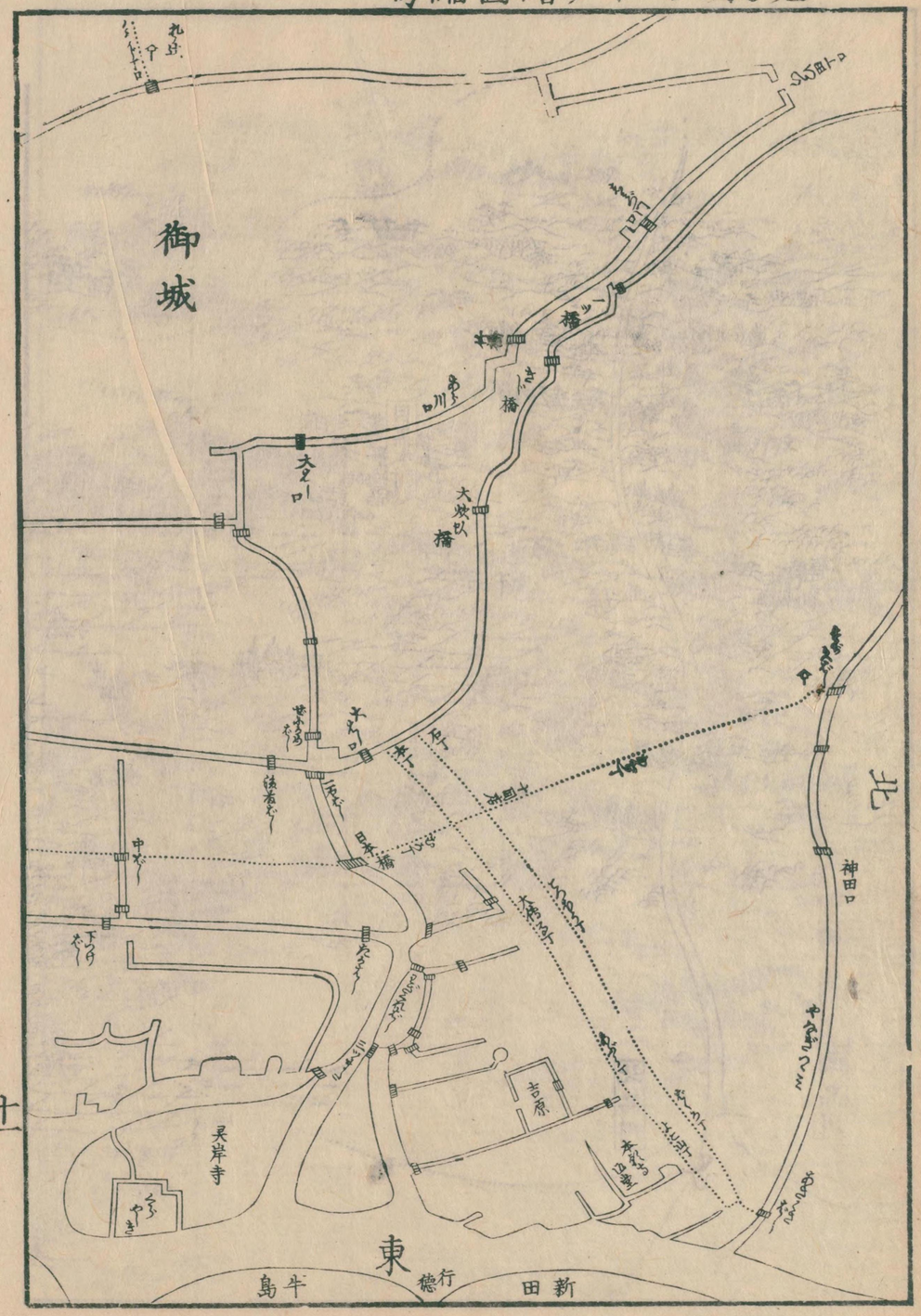
此圖ハ前のつゞきにて巣鴨より西の方を出て次へつゞきてある……この筋をもて乃としてはんるとしたハ奥筋へ下向の街道

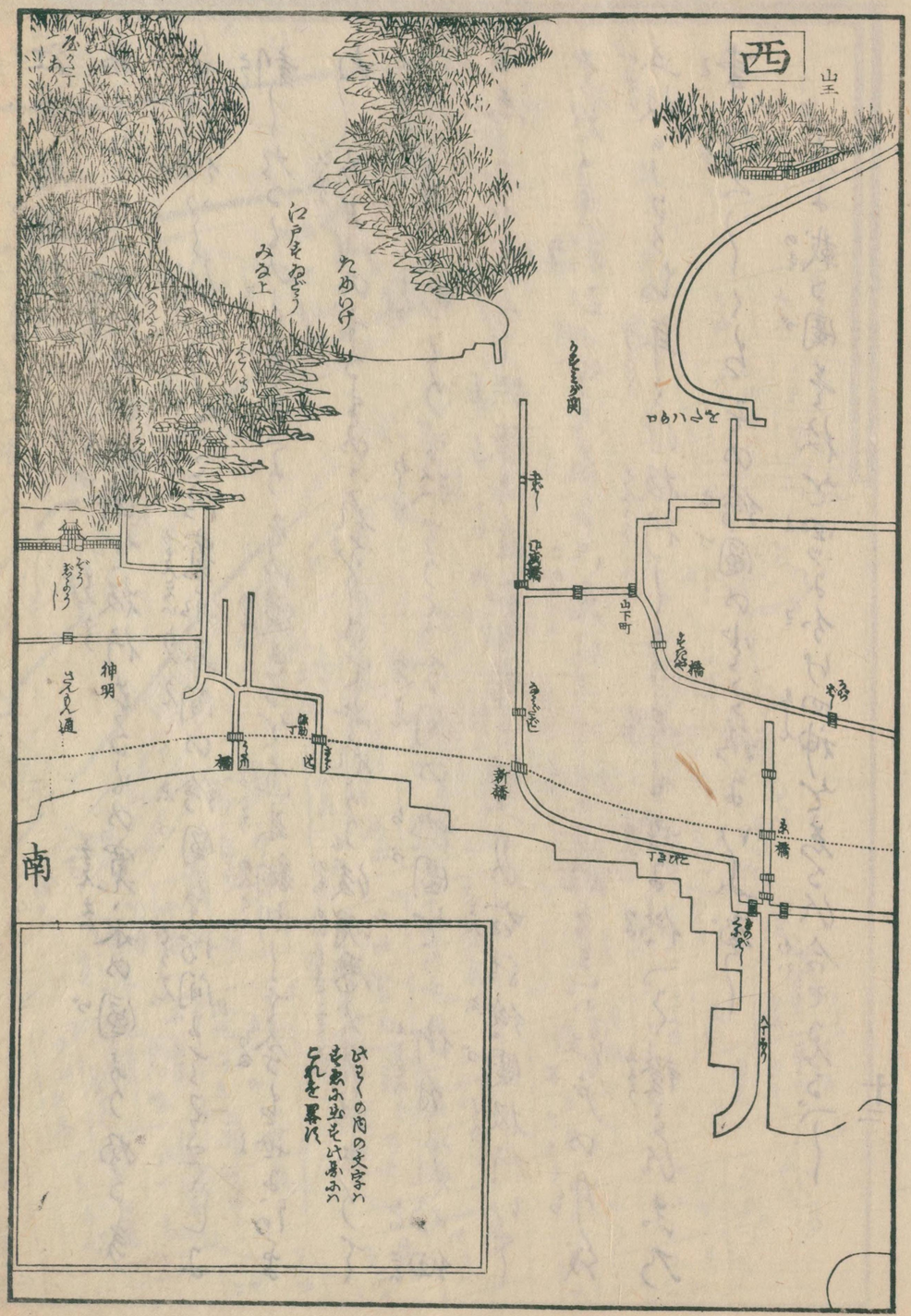




国立国会図書館　タイトル『御江戸図説集覧』 請求記号 貴9-54
ガラス使用

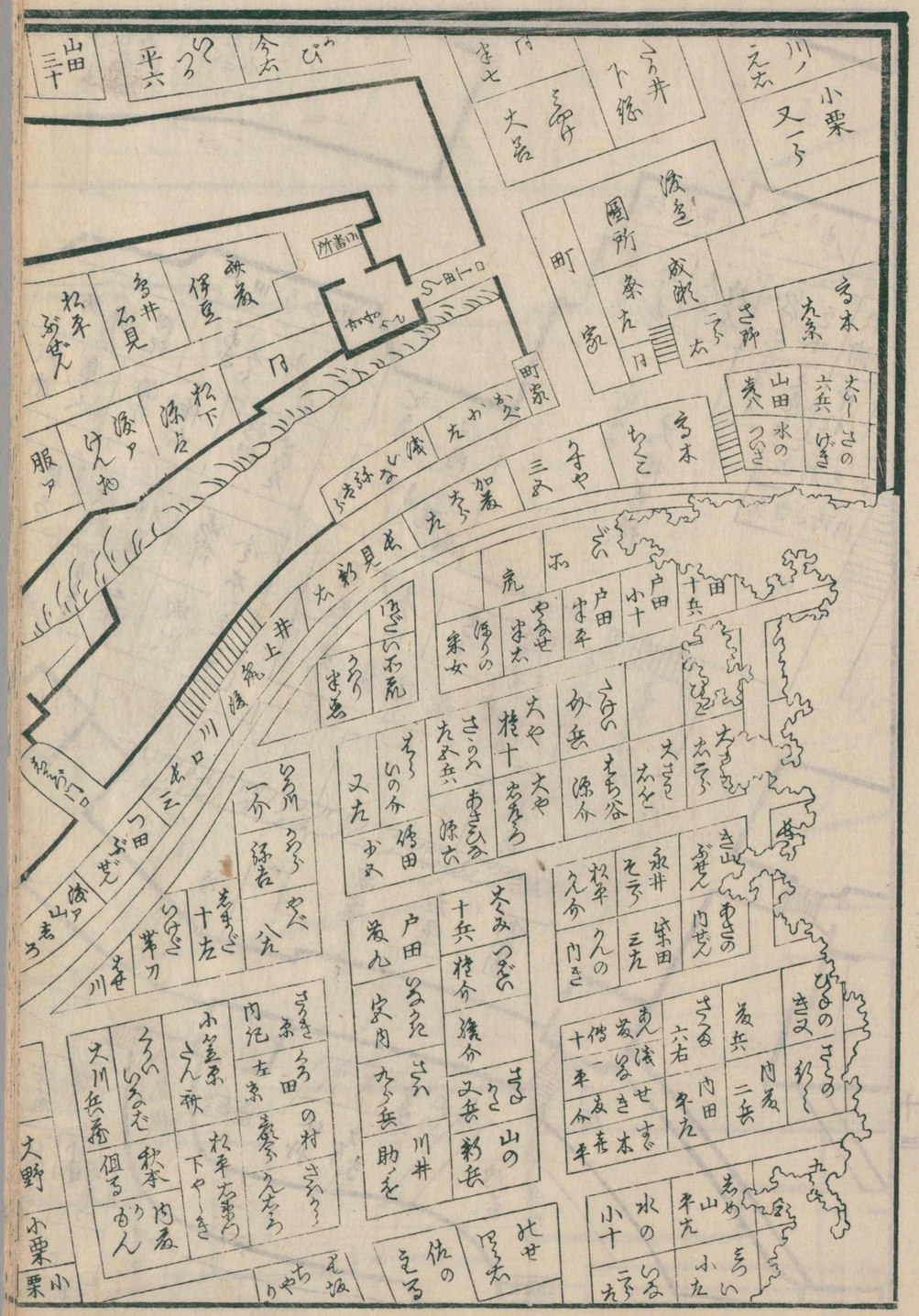
寛永板江戸繪圖縮寫





国立国会図書館　タイトル『御江戸図説集覧』 請求記号 貴9-54

ガラス使用

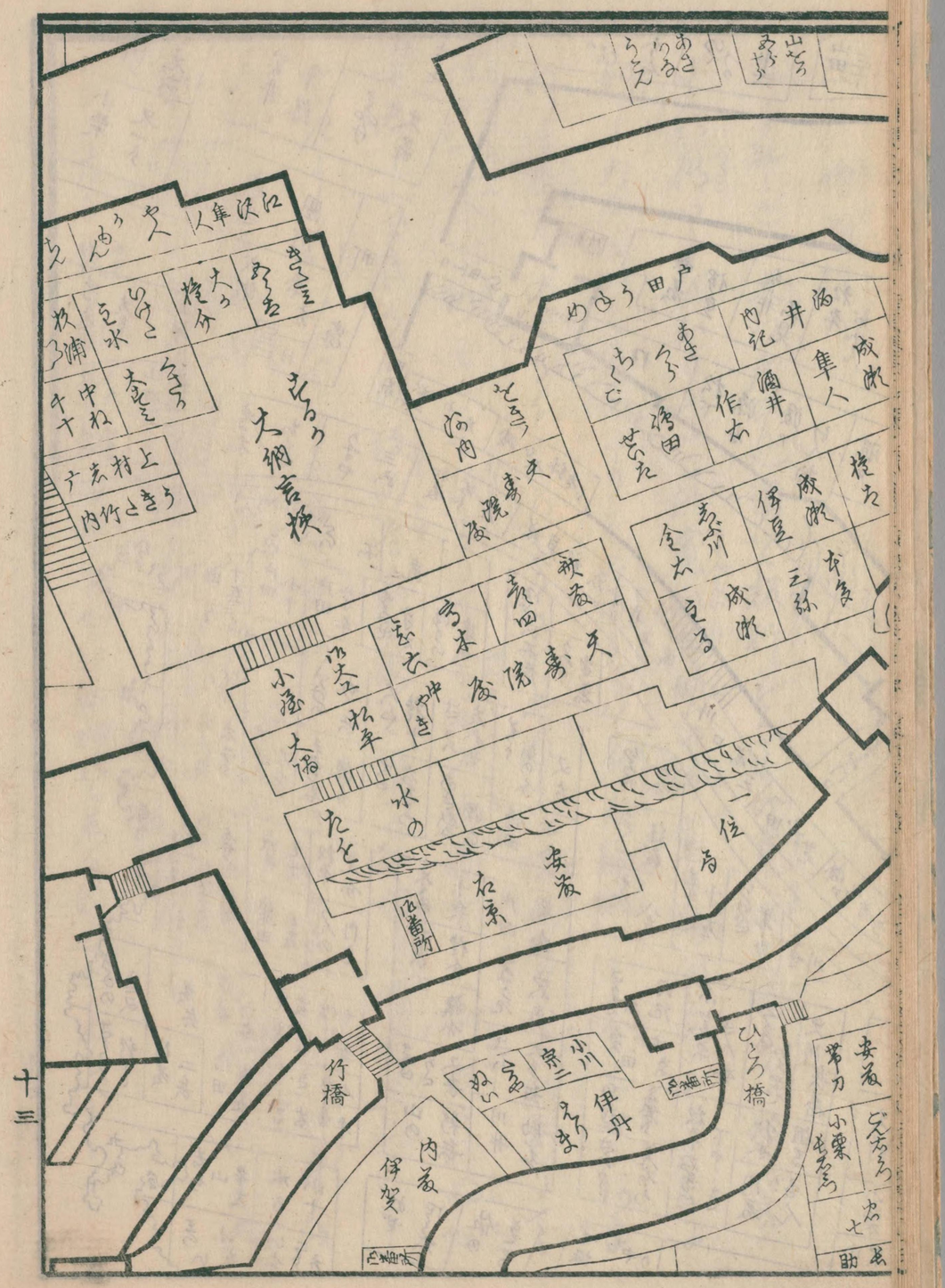


江戸繪圖梓行

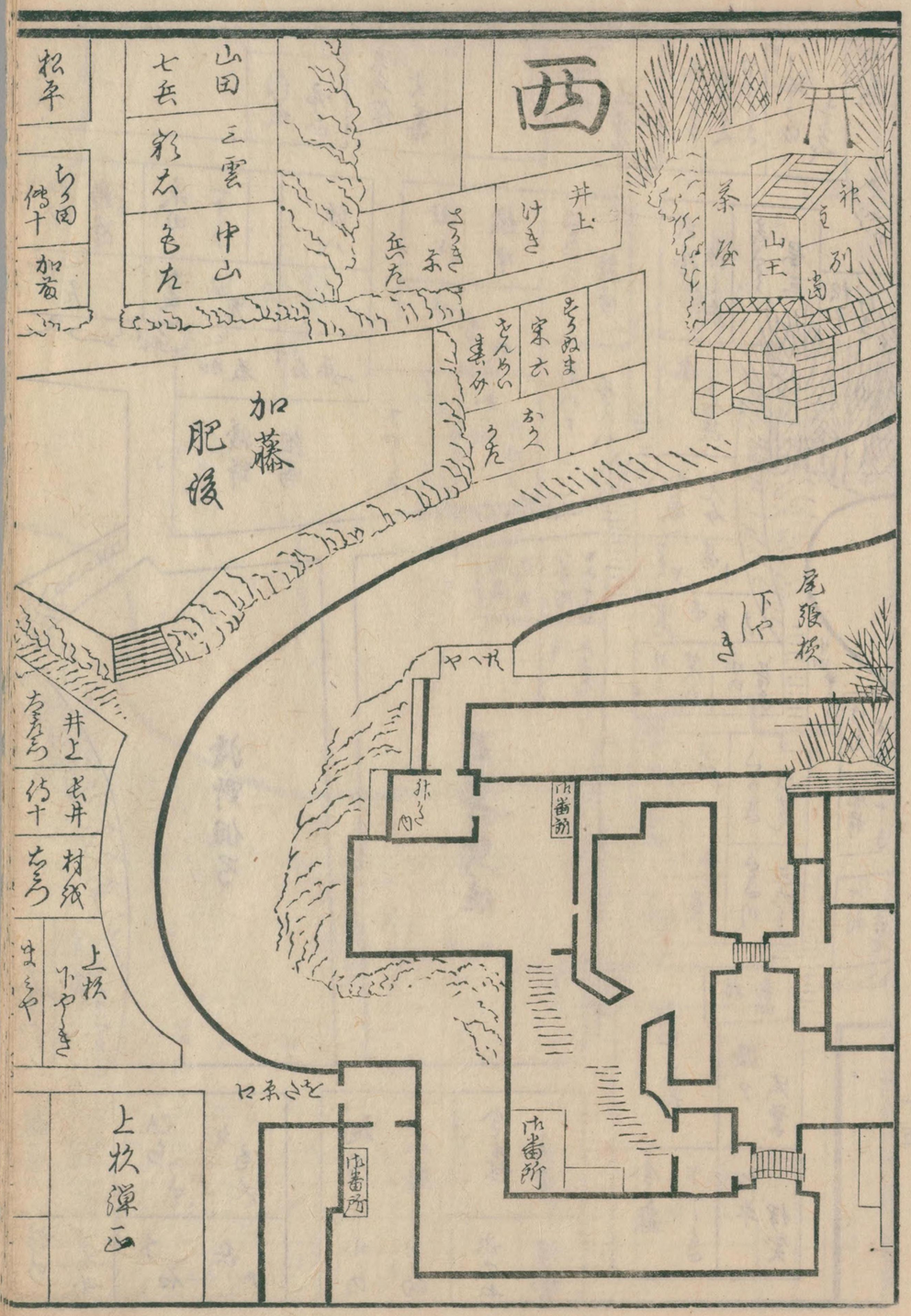
わかきこの大江戸の地圖を板行するもの寛永の圖より始る歳も此偽いらびかりふにこれ寛永年間の繪圖を坊間にてもてくしに刻しなるものと見えたりその遺もるを近来翻刻して今を世にのまねしたりのするものこれなりさて其れより後明暦火災にありて江戸一変し町まりも改まりて分間の地圖を仰付られ明細に志らべてきなる頃御師屋茄子漸と以ふものを右に繪圖板行いたしそれよし難ひ以ぞなるに出免にありて下されたまゝが江戸の本线立校ハ年々に板行しなり今も世に偽つて證とは此乃事揆えいしくもその繪圖の些こゝ語にいふ所にし

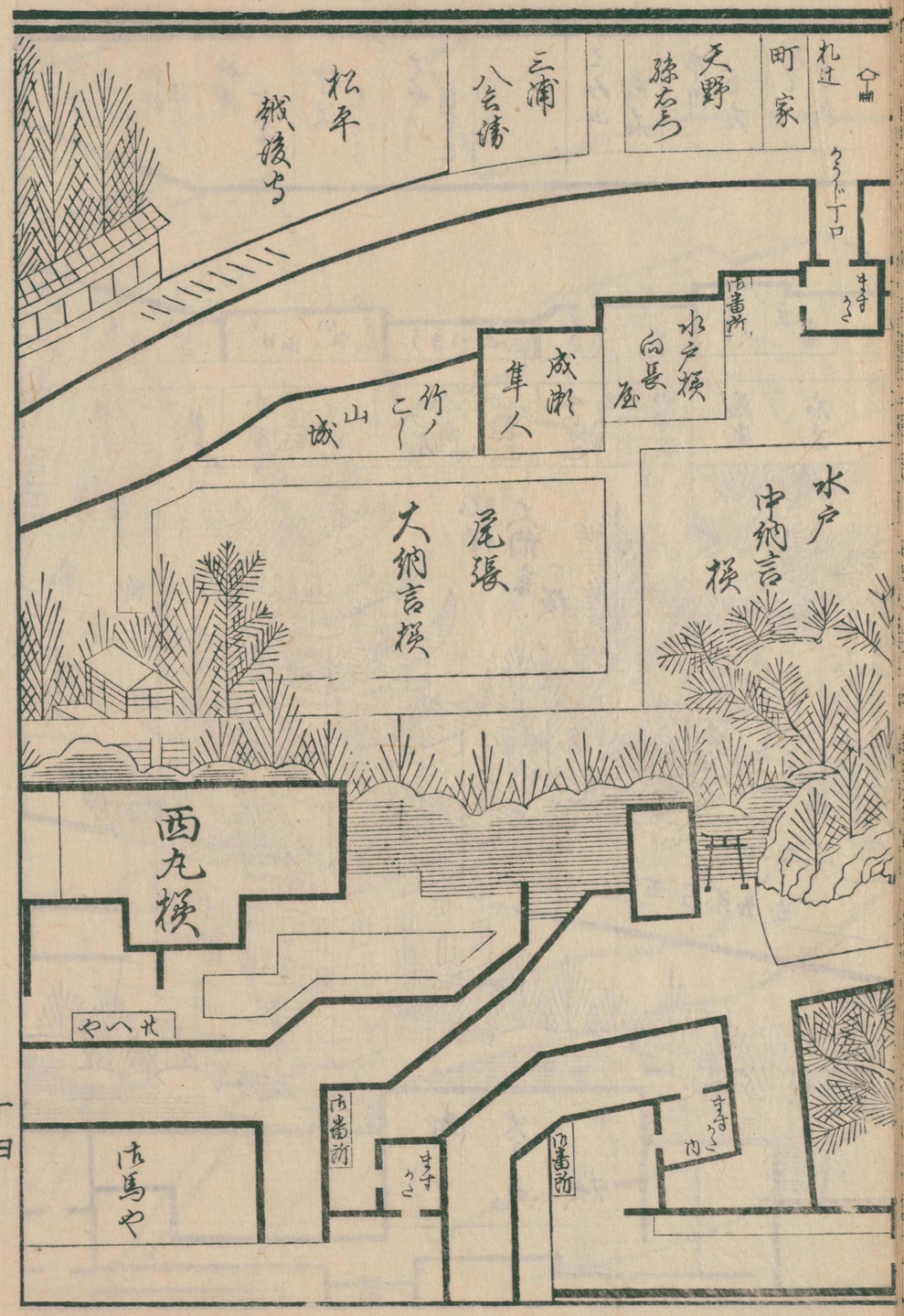
左に載る圖是校を四ツに分け四神を志るは合せるべし

十二

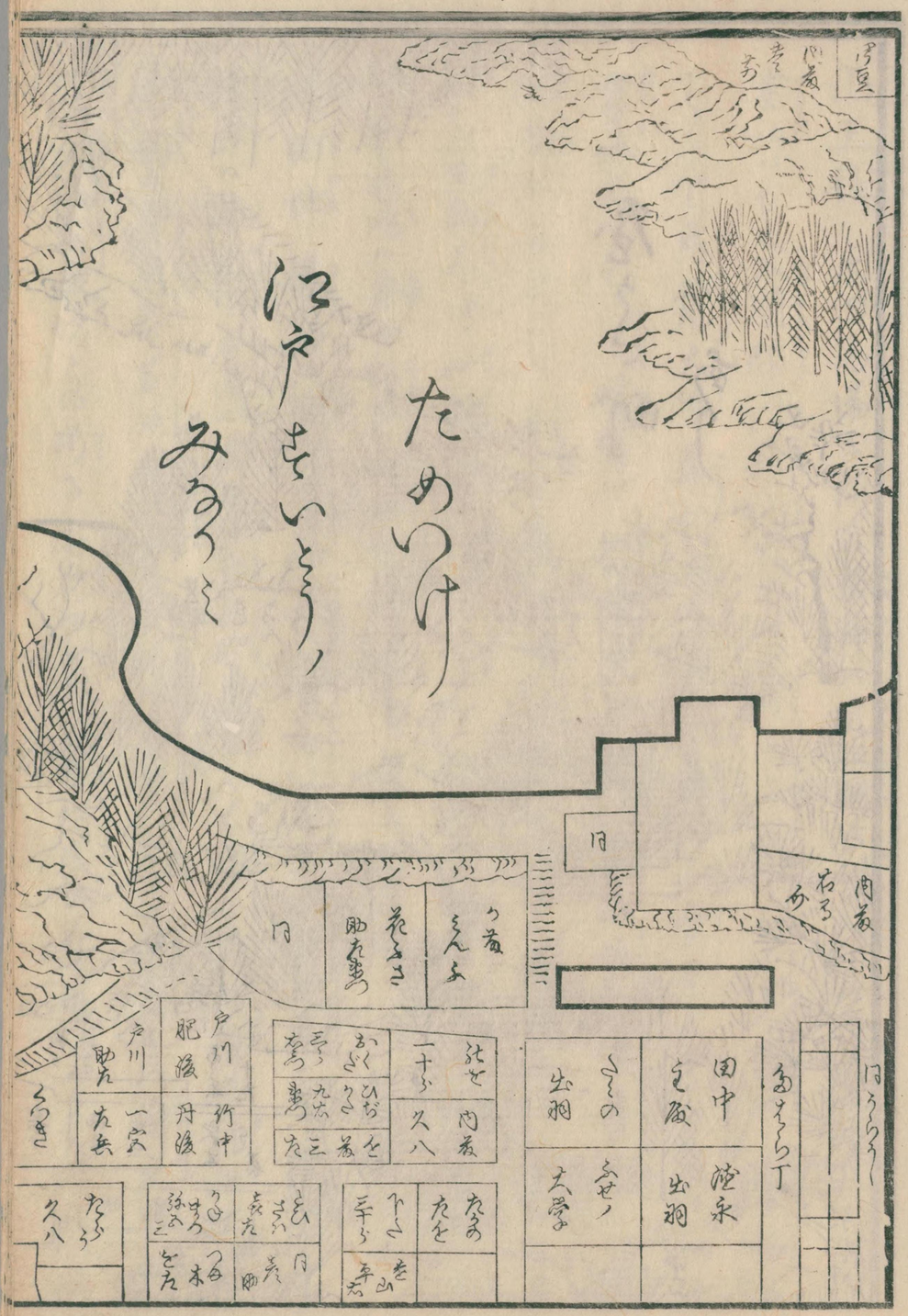


国立国会図書館　タイトル『御江戸図説集覧』 請求記号 貴9-54
ガラス使用





国立国会図書館　タイトル『御江戸図説集覧』 請求記号 貴9-54
ガラス使用



国立国会図書館　タイトル『御江戸図説集覧』 請求記号 貴9-54
ガラス使用

○山王社　永田馬場にあり祭神は近江國滋賀郡なる日吉神社と同じ當社はもと入間郡川越仙波といふ所に上古仙臺仙人の住し古跡なりしを慈覚大師草創ありて星野山無量寺と号し天台新靈地として山王権現を勧請すその後尊海僧正中興し三十餘院甍をならべたり長禄三年太田道灌江戸城を築き居住の地となりてのち文明年中仙波村星野山の山王を江戸に勧請ありて江城の鎮守とすその地は今の紅葉山なりといへり　祭日毎年六月十五日

○神田社　湯島にあり祭神大巳貴命聖武天皇天平二年鎮坐なり往古は神田と云地一國に二所三所ありて太神宮へ初穂の神供を納む當國は豊島郡芝崎村にあり又将門の霊を合せ祭るとは延文年中一遍上人真教坊この所に遊行のとりから村民のもとめによりて将門の

矣をお殿に祀り神田大明神二座とすその傍に草菴を結び芝蒙道場と呼ぶ今淺草なる神田山日輪なといふる遊行る即これなり 祭日九月十五日

○築土社 往古は田安にあり今の平川江門を遷なり天正七年平川二の丸御造営によりて牛込江つの内に社地の代りを下さる天正より三十七年をへて元和元年江堀ごとひの時江周地となりて今此地にかゝ地をたまはれり 祭日九月十五日

○飯倉社 芝にあり祭神は伊勢太神宮影遷なり一條天皇寛弘二年九月十六日に御神幣と大牙一枚此地に降る人民あやしきなるところに七歳なる里の児女に託宣ありて我は伊勢両宮の神なり此地に住んとありしかば鎮坐なし其後百とせを經て建久四年源頼朝下野國那須野に發向のとき祈願ありて宝劍を納め千三百貫の神田を寄附したまひければ

神徳いやまし日に盛んなりしが明應の頃伊勢新九郎関原に威をふるふの時當社の神領を掠めとるに神殿大破せといへども天正御打入以後御崇敬ありて寛永十一年再び御修造ありてより昔に増る靈社といはれり 祭日九月十一日より廿一日まで

○牛御前社 本所牛島にあり祭神素盛烏尊なり清和天皇貞観二年慈覚大師の勤請なり牛の御前といへるは牛頭天王と稲田姫御前とは夫婦の神なればこれを合せて神号とはといへり 祭日九月十五日

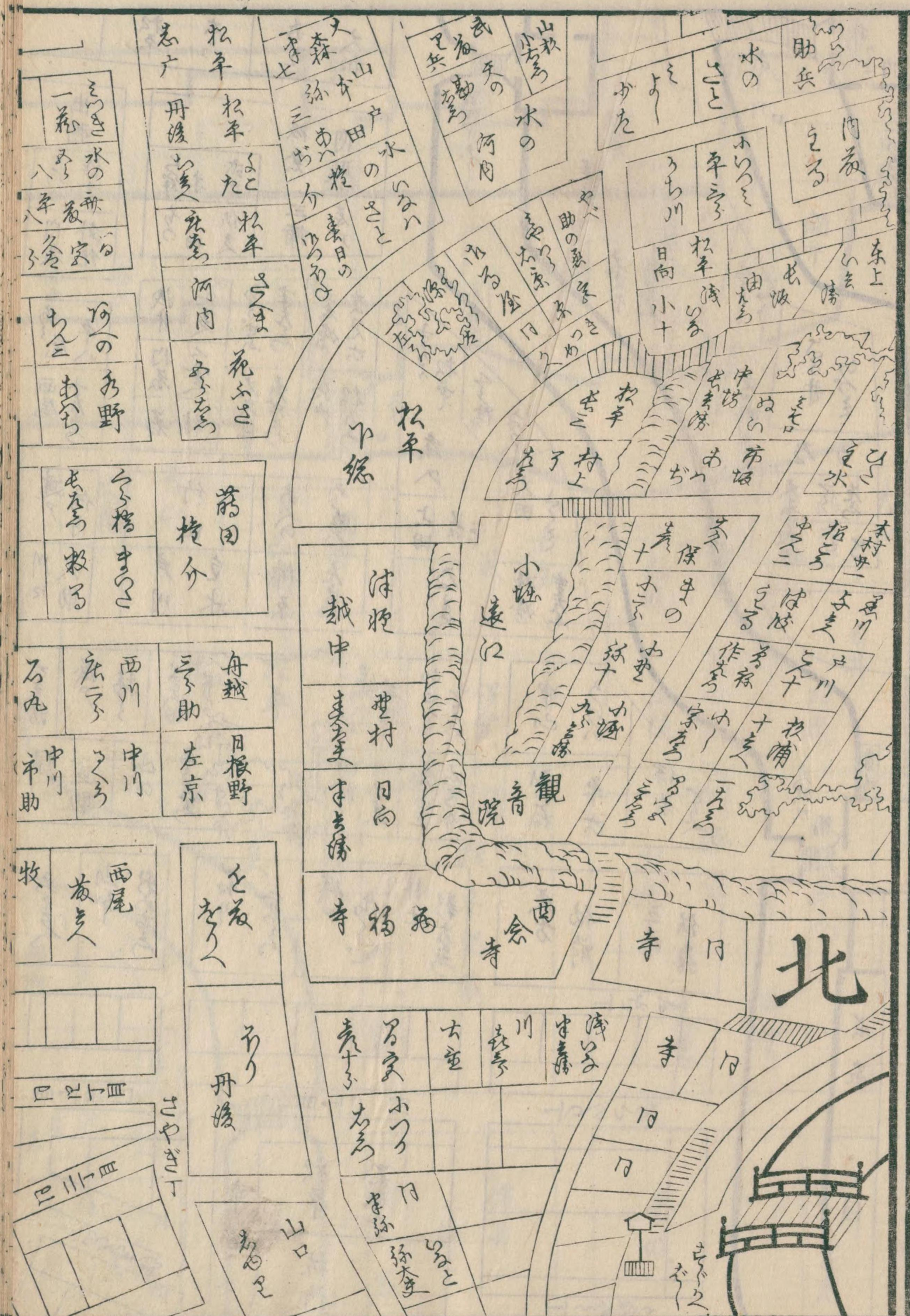
○富岡八幡宮 深川にあり祭神鵜鼠八幡宮なり太田道灌深く信仰なりしによりて其後寛永元年に長感法印に靈夢の告ありて永代島に宮社を建立し同二十年八月十五日にはじめて祭礼を執り行ふる 祭日八月十五日

○鳥越神社　元鳥越町にあり祭神　天児屋命　日本武尊二座なりしハ
大社にて境内も廣かりしを正保二年御用地となりて替の代地を山
谷町にて下さる今その所に社ありて新鳥越といふ其時の社家のねが
ひによりてもとの社地にも神社をのこされしによりて元鳥越といふと
いへり　祭日六月九日

○王子神社　王子村にあり祭神熊野三所なり若一王子ハ天照太神に
てこれ新宮なり文亀元年當社建立あり後寛永十一年厳命あり
よりて御造営ありこの時御儒者林羅山命をうけて縁起をつくりて
宝前におさむ毎年七月十三日田楽躍あり寺中十二坊よりこれを
つとむ参詣の者紙細工の鑓を納めおきありしを受てかへり魔除
とす此神事を俗に鑓祭りといへり

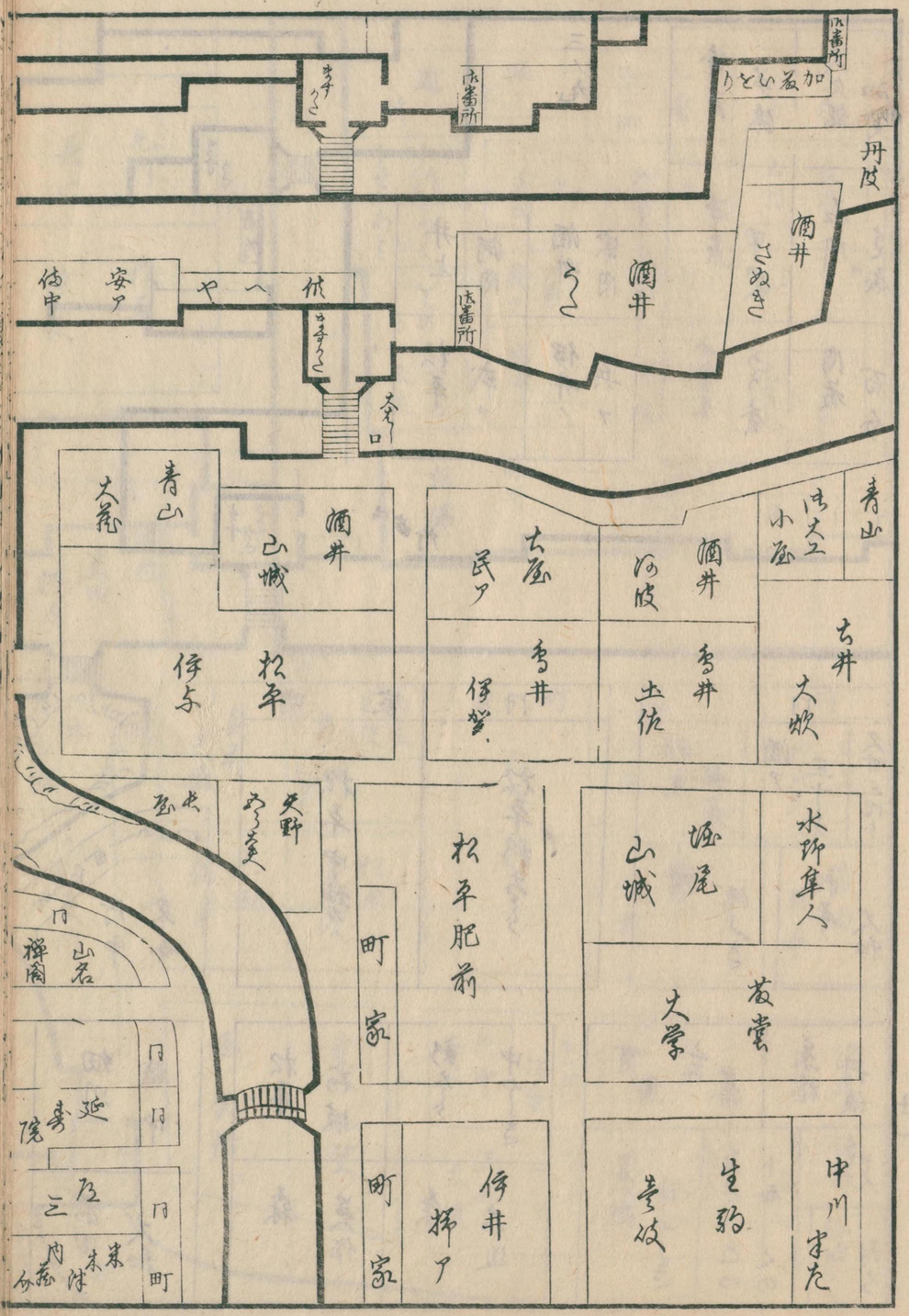
○金龍山浅草寺　當寺観世音菩薩の尊像ハ推古天皇の御宇
土師真人中知といふ都人故ありて都を立出て此武蔵野にまよひ
その臣檜熊浜成武成といふ二人の兄弟跡を慕ひきたれり宮戸
川今の浅草川のほとりに仮住居して二人とも漁りを業として年月を送
られし元よりいやしき身にあらねバ魚鱗の命をとりて世を渡る
事を憂ひ観世音ハ群品を済度し諸苦悩をすくひ給ふ
の誓なれバ大慈大悲の力をたのミとりうる魚類の生をとむらひ我等
が罪もゆるさせ玉へと一心不乱に観世音の御名を唱へつゝありしと
祈りをなせしかバふしぎや同帝の三十六年戊子の三月十八日
二人の漁夫宮戸川の流に網をおろせしにあやしきものかゝりけり
うけ取りみれバ不思議や観世音の尊像なりやがて草を結びて

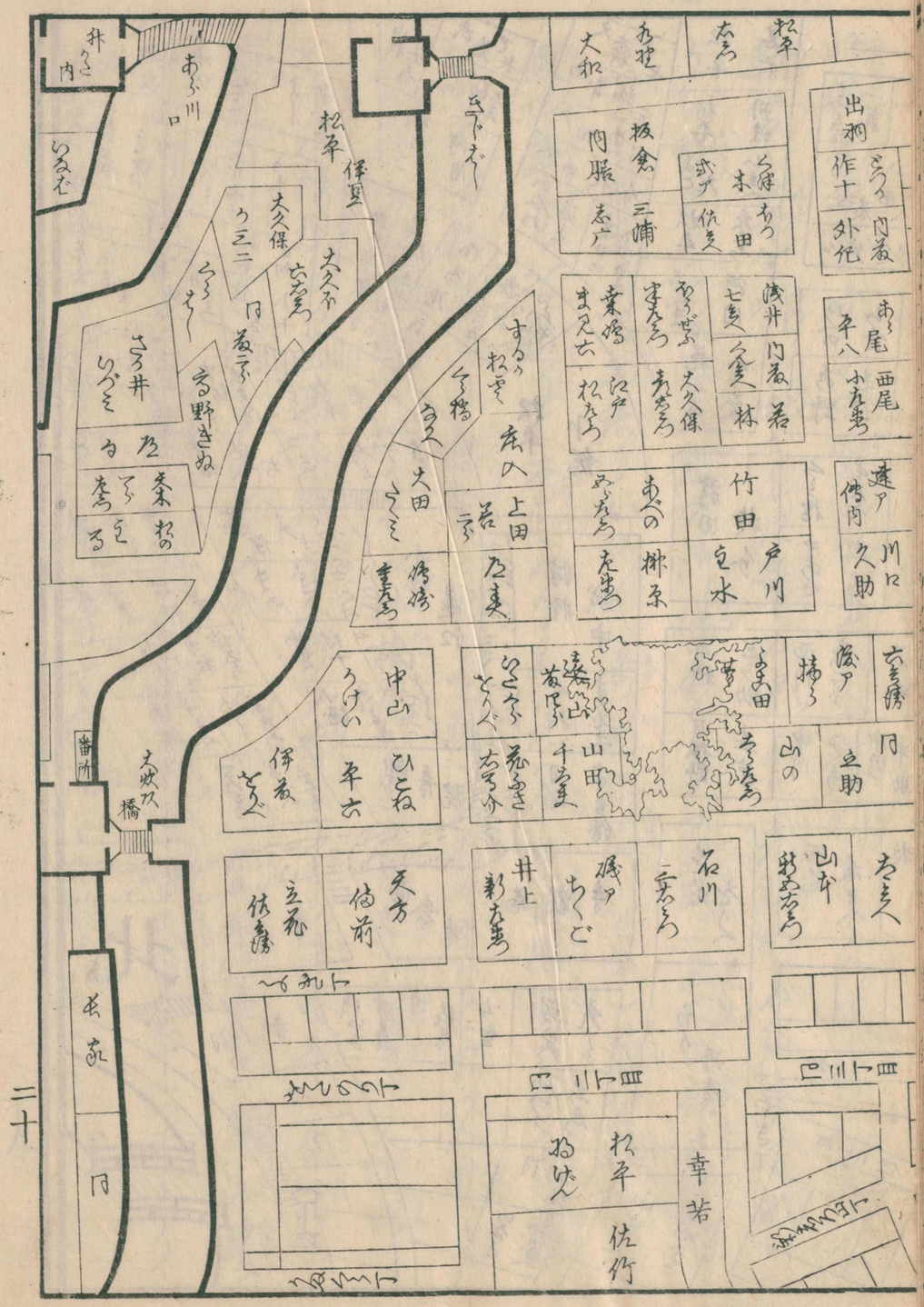
国立国会図書館　タイトル『御江戸図説集覧』　請求記号　貴9-54
ガラス使用



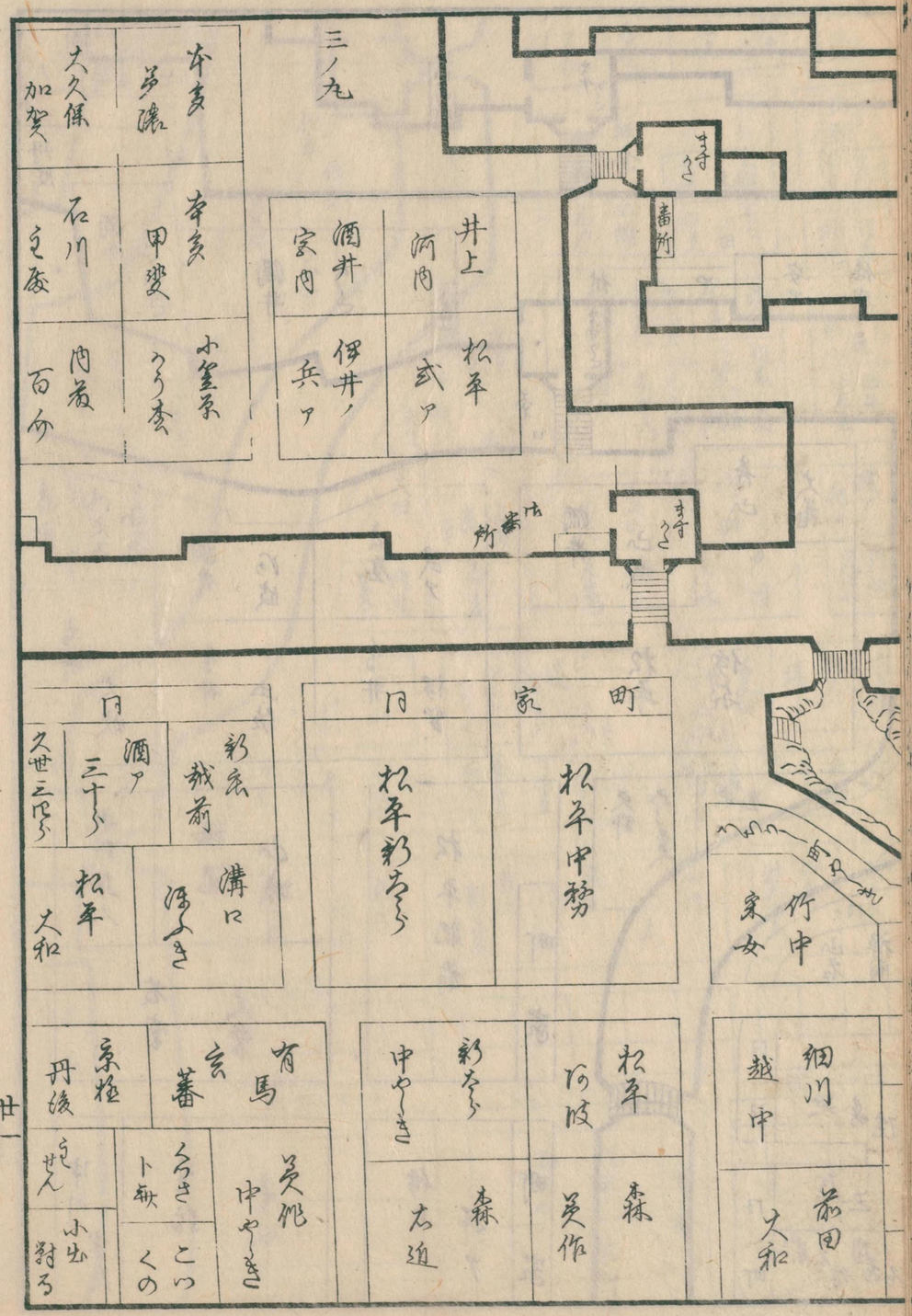
此像を安置す其翌日を迎ふる草刈ども十人つれ立て
朝とく草を刈に出たるに草の中より光明かゞやきさかりければ
うち驚たるに大悲の御像ありし處所へ三人の若者来りて
志かじかのよしを物語りかの奇異の思ひをなし藜を柱として
假の草堂を造りて為ごろり其の地は今の一之権現の所なり藜
をもてつくれるにより藜堂といへるを後にはあやまりてなん堂と
いふ此三人の漁夫を祀りて三社権現とあがめ草刈童十人を祀り
て十社権現といふ其子孫今にあり昔よりこの浅草寺へ参詣の
群集あること他にその類ひなし今此御堂の造営は寛永年
中の御建立にて壮麗無双の霊場なり推古天皇三十六年より
嘉永五年まで凡そ一千二百十六年になれり

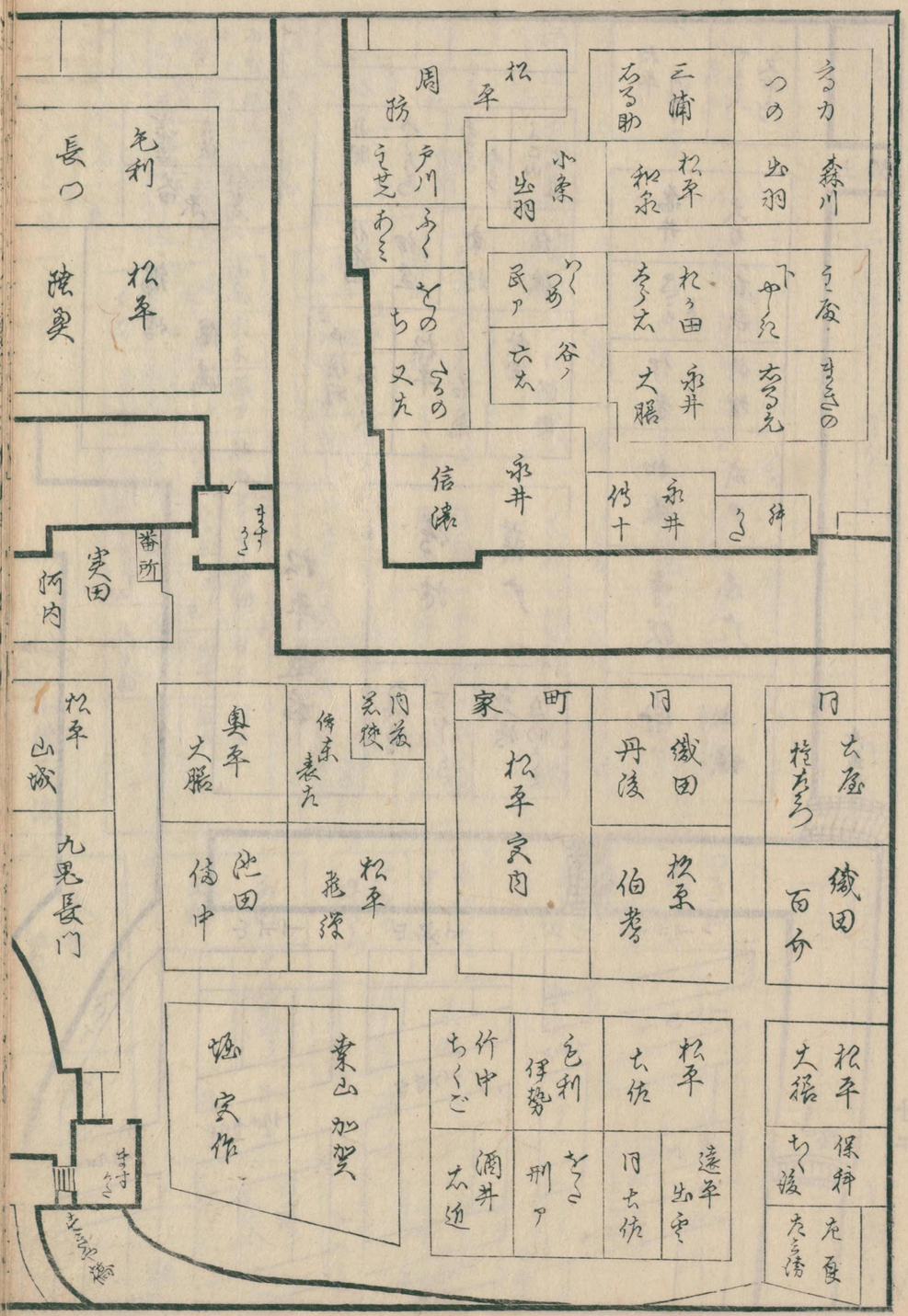
国立国会図書館　タイトル『御江戸図説集覧』　請求記号 貴9-54
ガラス使用



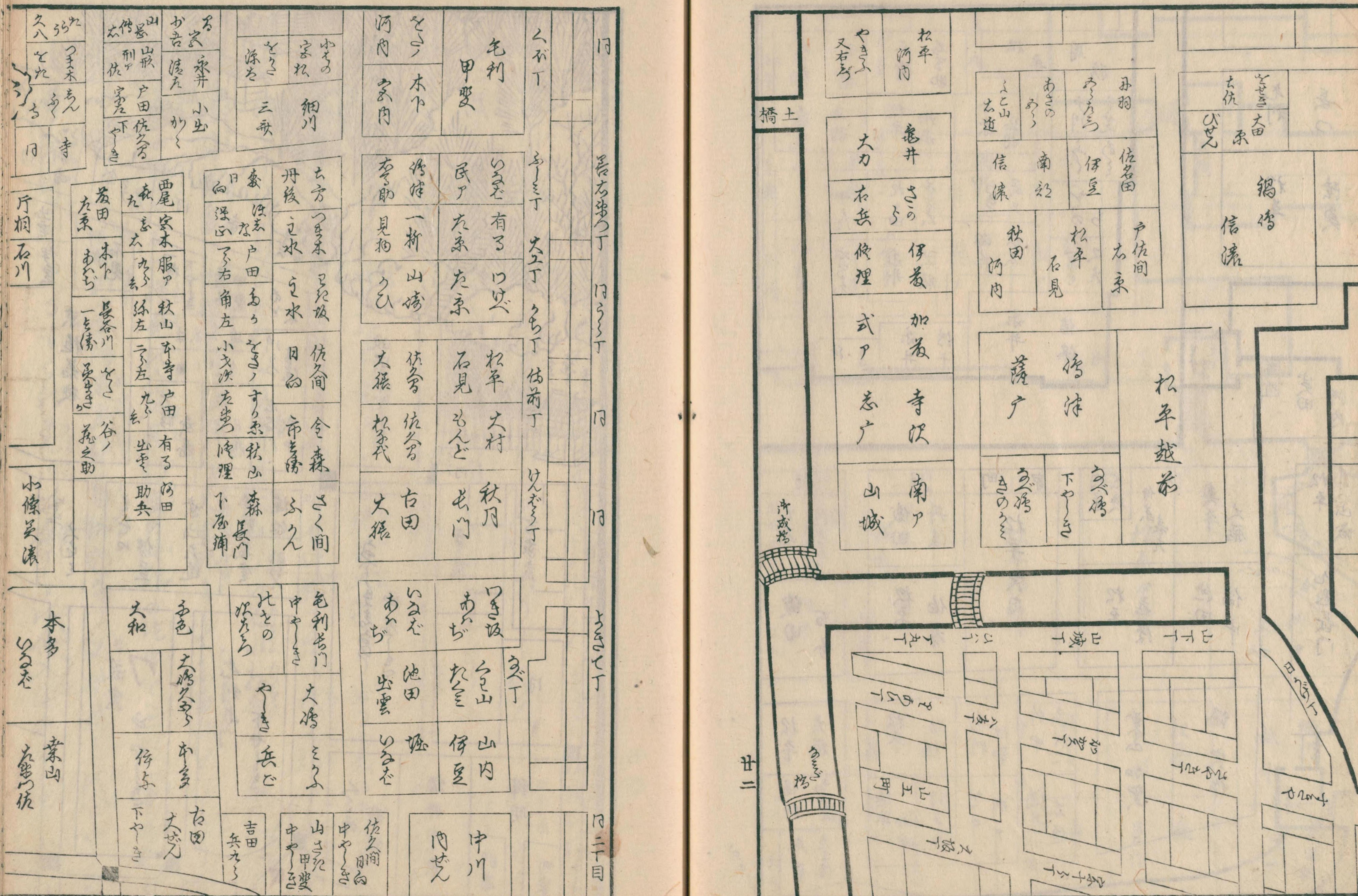


国立国会図書館　タイトル『御江戸図説集覧』 請求記号 貴9-54
ガラス使用





国立国会図書館　タイトル『御江戸図説集覧』　請求記号 貴9-54
ガラス使用



廿二

国立国会図書館　タイトル『御江戸図説集覧』　請求記号　貴9-54
ガラス使用

隅田川　葛飾郡に隅田村といふ地ありて（今ハ須田と記て すだ村といふ）そこに渡場のある故
に隅田川と称しけるを通して此の川乃名とおもひしなるべし猶今も戸
田の渡りの辺りより上つかたハ戸田川と呼び浅草の辺りより下つかたハ浅草川と
よぶがごとく宮戸川と云るも今の三谷の地をさかひに唱へたる由にて宮戸
川とよびたるなり水上をば荒川と云秩父大滝より出る故の名なるべし
その水源ハ信濃より出るといへどもその国までハ秩父郡中津村を
もて源とするなりそれより下までハ秩父の諸水を合しすべて一大河と
なり榛沢男衾の両郡の間をながれ大里郡にして東南にむかひ左りを
足立郡の地方右ハ横見比企入間新座の四郡の地方をへて豊島郡に
入りされどもこれのたハ猶足立郡葛飾郡なり又横見と比企との
境なる市野川といへるもこれ荒川に合し比企入間のたひぐるまで

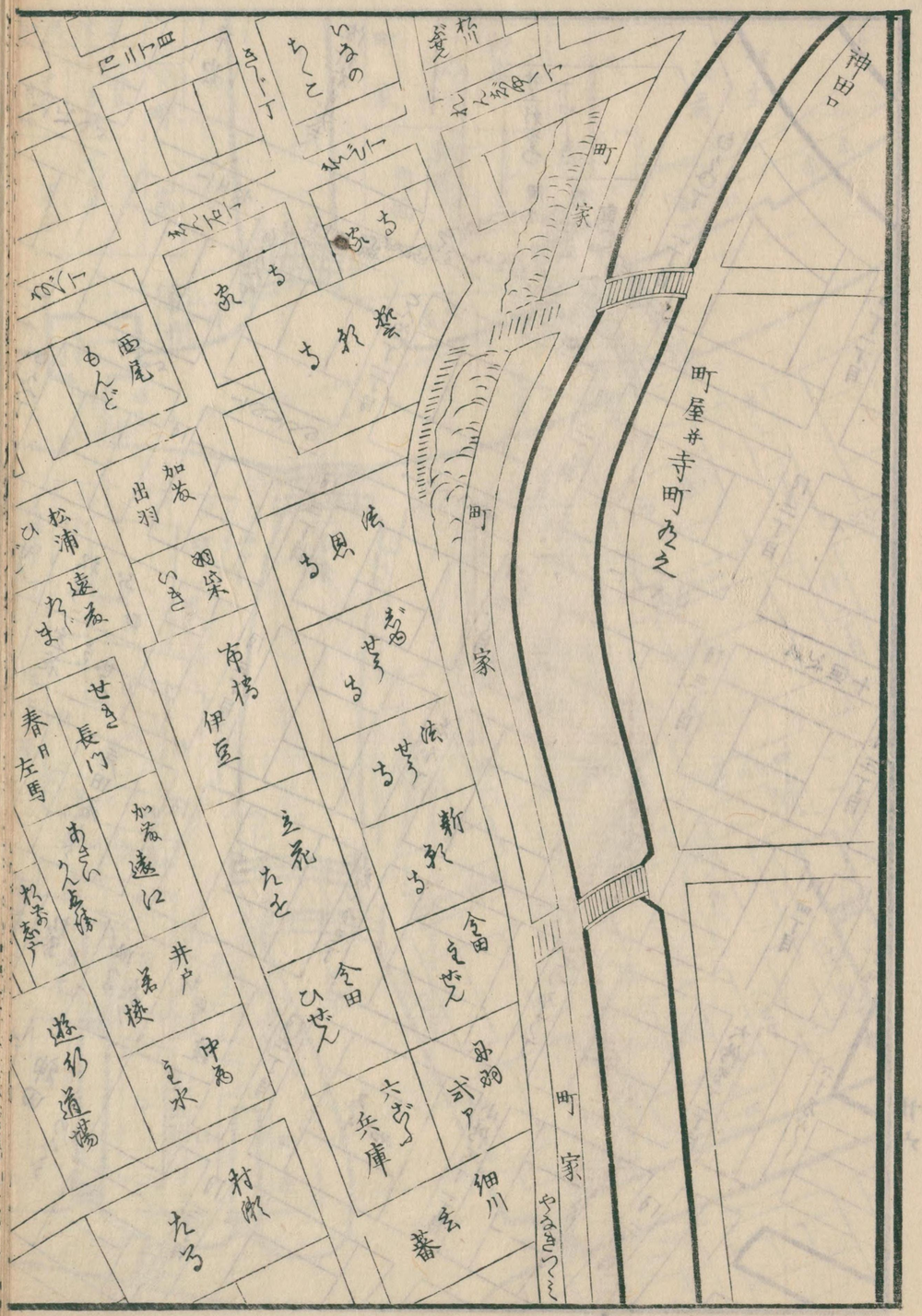
都幾川押邑川といひ入間新堂のこのひざにはいへ入間川新川岸と
いふも同じく荒川に合するなりこれ今いふ隅田川の源流大畧かくの
如し又元荒川といふありこれは中古の川筋なり故に元荒川といふ
大里那熊谷宿の西より分れ埼玉足立二郡の界を流るこれを綾瀬川
とも云粮流派を精しくいはんと事長なれば志ばらくはしるに畧に右に
いふ所の元荒川といふもの即古隅田川にして源は秩父に發すといへども
入間川あるひは利根川に合する右に判官物語には利根庄上野の国より落
るともいへり

梅若塚　梅柳山隅田院木母寺にあり本堂のうちに柳を植たる古
墳なり昔の柳は枯まで株のこれこり今は若木の柳はやく已に大樹
なりこの梅若丸の事跡は正しき書に志るしたるものなし隅田川

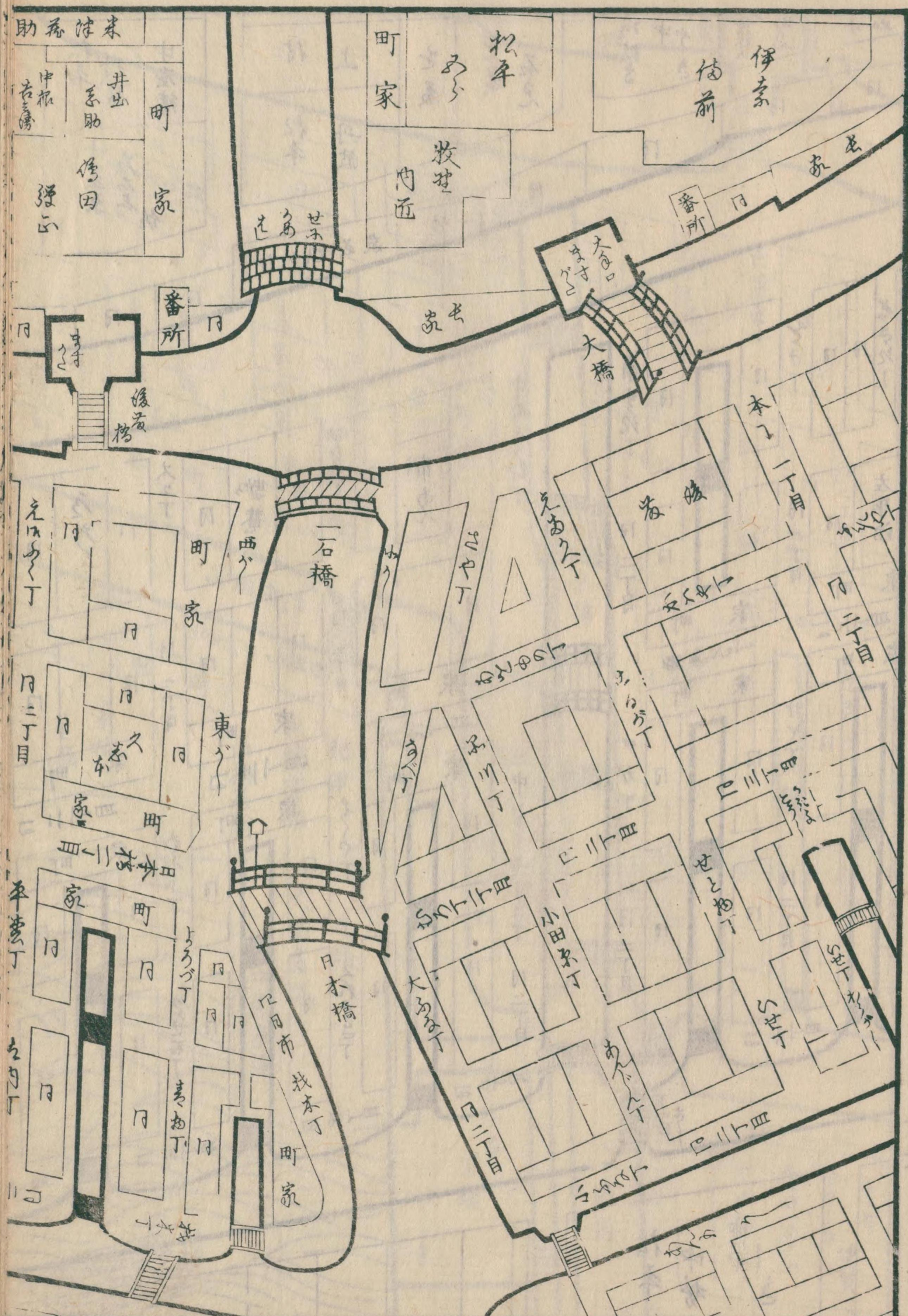
の謡曲にはんぬるが始めなるべし志かれども塚の古よりなりしよしは
太田道灌の愛したる漆桶萬里といふ禪僧の文明十七年に志るし
たる梅花無盡蔵といへる記に角田河邊有柳樹蓋吉田之子梅若丸
墓所也其母北白河人といへりまた聖護院道奥准后の文明十八年の
紀行田園雜記といへるものに

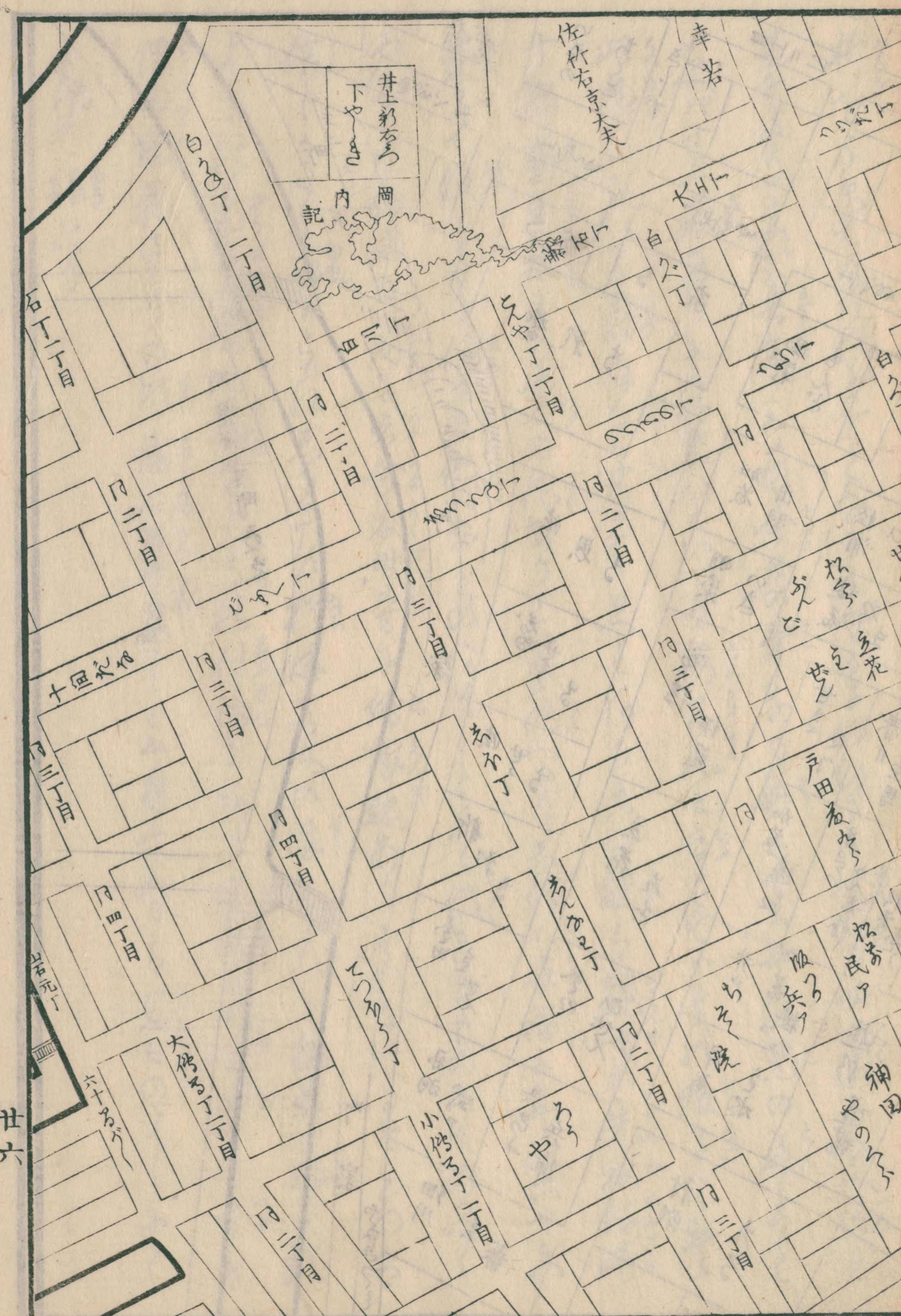
吉塚のうけ行れすこぶ川きて浚りてもぬるゝ袖にあれ

といへるかもありさてこの梅若丸が事は謡曲にはおよそ何くいかなる
人ぞと父の名字をも國をも蔵ひ給ひしが我は都北白河に吉田
の何某とかす人の唯獨りの子にて父にはたやくおくれ母だりに
おくひまゐらせてありしを人商人にかどはかされてかゝりに成行たり都
の人の足手かけもなつかしうしいへば其の所にはとりに藥にめて志るしに

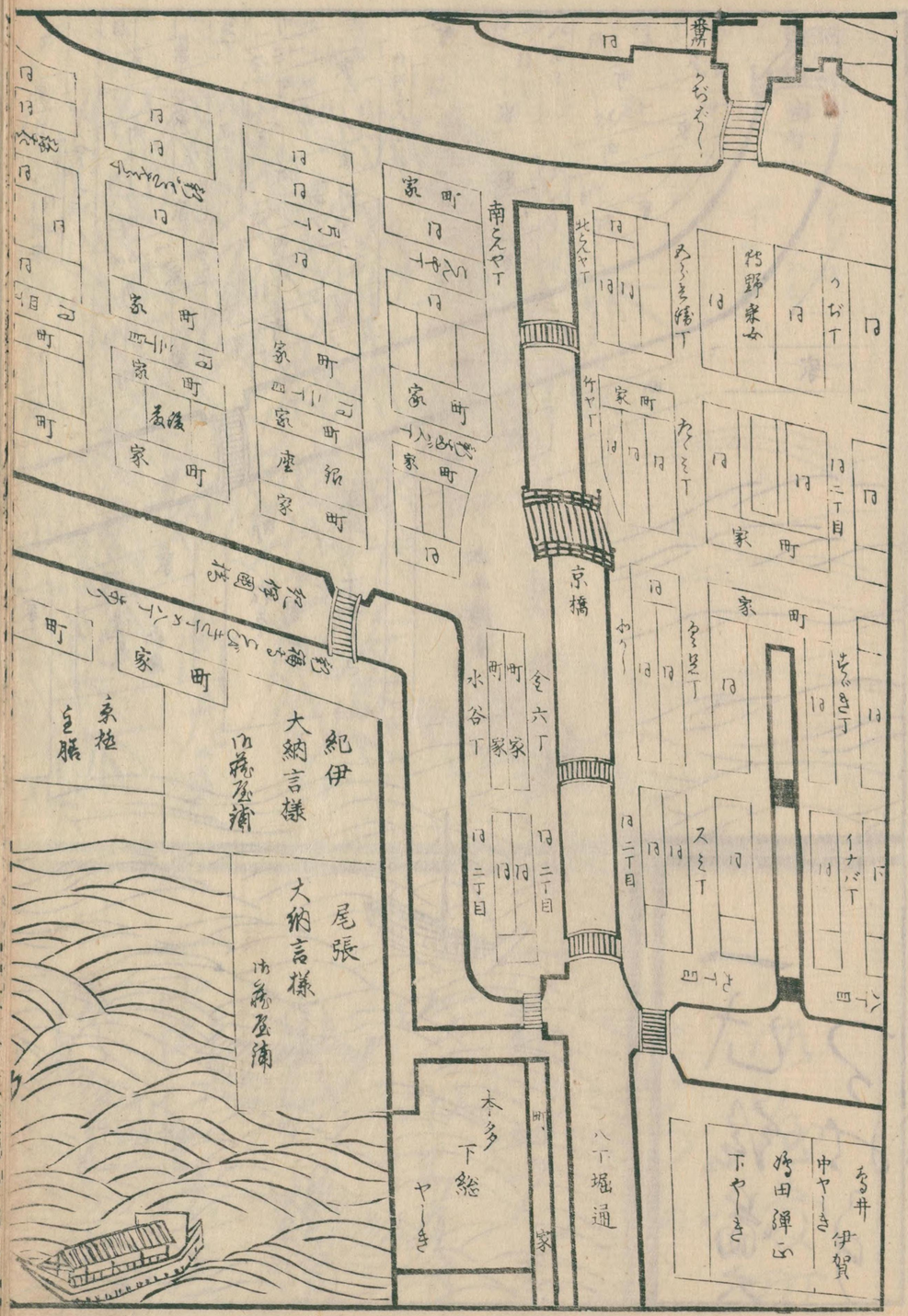


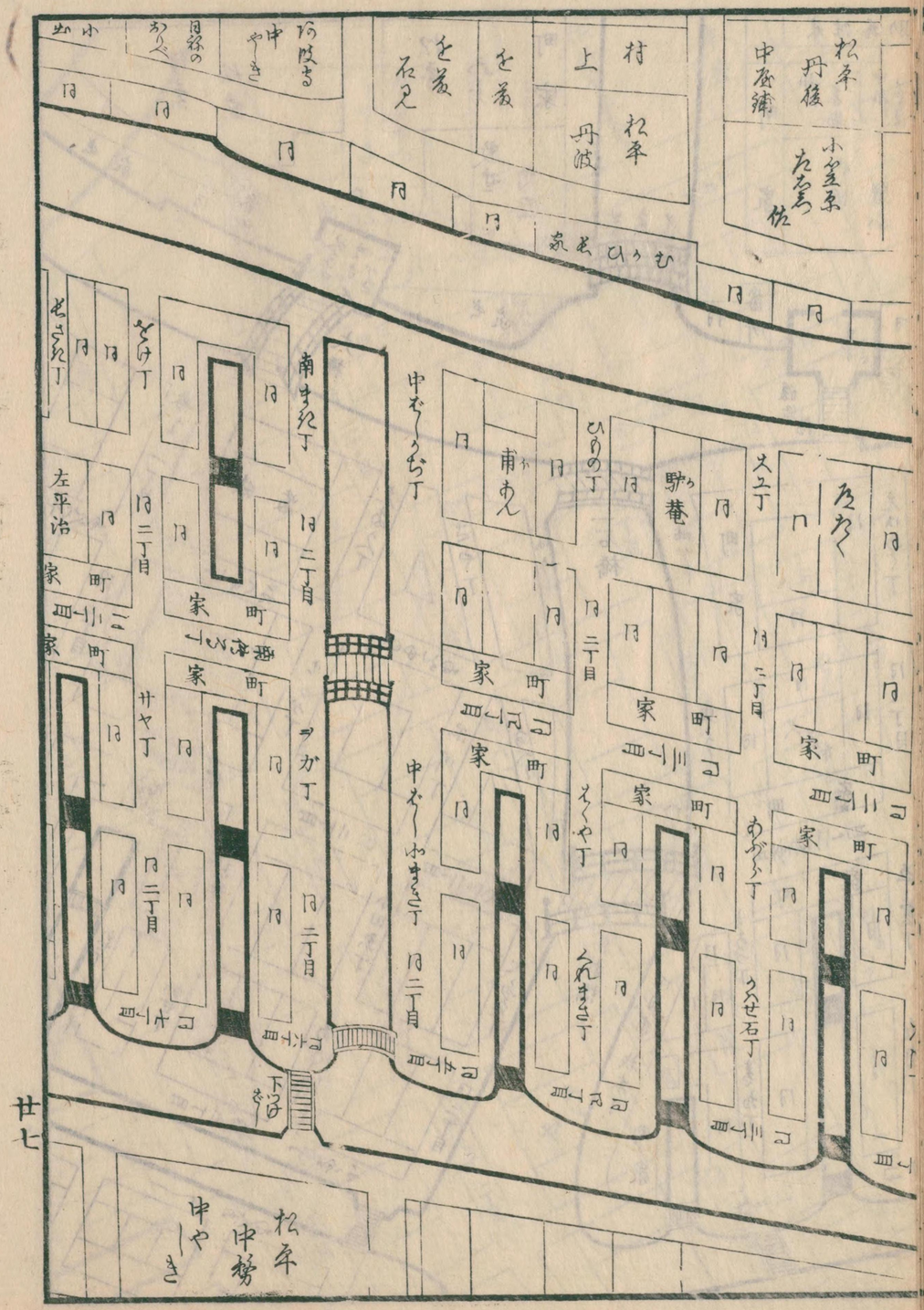
柳をうゑてゐられとをとなしやうにいひて念併四五遍となへ終に
ちてたりこれは去年二月十五日今日の事なり母さてはそれ兒の年もと
さへば十二歳なりそれ名はといへば梅若丸と云さてはそれ稚子こそ
此梅ぐるひが蒔ぬる子にてゆへとなり其の謡も観世の先祖結崎
十郎秦元雅といふ人の作なりといひ傳へたり其れ人長禄三年は六十五
歳にて没したり何か云傳へなどのありしことを作まるものにもあるべく
やはりがたし周に云今木母寺に絵縁起ありそれにいへるところも
信じたるに故にこれ志るさば粉梅若丸の像なしびに梅若が持たる新
よしの象牙骨の扇などもそれ什物になり開帳の時に出せり今も
隅田堤花さかりの時諸人羣集して二月十五日も忌日のよしにて
とけて賑はへり





国立国会図書館　タイトル『御江戸図説集覧』　請求記号　貴9-54
ガラス使用





国立国会図書館　タイトル『御江戸図説集覧』　請求記号 貴9-54
ガラス使用

一 此絵図大つもり

廿七

佐賀町 たちう〜

一 東ハせん志のみまへ日 奥州海道

一 南ハ志ゑ志 佐〻く也

一西への町へ
法ノ道ハ日
たち法ノ
一小ハ神田板
右之道ハ
作偏殿覧

日本橋　長さ二十八間あり大江戸の中央にて諸方への道法この橋を
元とし小の橋詰室町壹丁目なりこの西側を尾店といふこれハ尾崎屋と
いふ者の相所やしきゆゑなり東の方ハ河岸ハ本船町なり青店にて
毎朝魚市立つ

一石橋　日本橋より二丁ほど西になりこれ橋の南に呉服後藤北に
金後藤ある由忍に後藤を秀句に南にも五斗小にも五斗その間に
ゆゑに一石橋といへるとなり又一名を八橋と云此とこれを隣の橋七ツ見
えて此橋とも八になるゆゑといへりその七ツハ日本橋　江戸橋　呉服橋　鍛
冶橋　鈔瓶橋　道三橋　業磐橋なり

親仁橋　寛永五年十一月座司甚右衛門と云者かかゝる橋なり
この甚右衛門はもと小田原の浪人にて吉原開發の親人なり其所頃

官府にても甚右衛門事をおやぢ〳〵と呼ばせ給ひしぞ、されば世の人もおやぢとさへいへば甚右衛門が事なりと名にやられけるにて、その人にさゝれしゆかりの甚右衛門がかゝはれる橋なればおやぢ橋とは名付しとぞ

芝居　歌舞妓二座禰宜町に猿若勘三郎・葺屋町に市村竹之丞有

大昔は芝居町にあり、その時も辻芝居にて、後に中橋に芝居立る此時もむしろ囲ひのかこひ出来て今の宮芝居のごとくなり、其後禰宜町より移り又今の堺町にうつさる。勘三郎は寛永元年に歌舞妓芝居を稼ぎひらく始めて中橋に立る元祖勘三郎は猿若とて上手なるの名人なり。寛永九年阿宅丸と云船伊豆より江戸へ御取寄るにおゐて時勘三郎舟の舳先に立て音頭をとりしなり。これより以前御城へ召させられ藝盡しをいたし鳥目ならびに金襴の猿若衣装を拝戴く。今に猿若の家の宝物として寿狂言ある時は舞台にて披露するとなり。市村竹之丞芝居は寛永十年村山又三郎初て建るなり。又三郎は泉州堺の者にてひとり藝小哥の名人なり。其の頃は舞をどりばかりなりしを、寛文の頃右近源左衛門と云女形上方より来り座へくはゝり二番続三番続の狂言を仕出せり

霊巌島　檀蓮社雄誉霊巌上人この江戸をくだりて伽藍を建立せんとて寛永の初め海汀を築立て梵刹を造りて霊巌寺と号せり。その島をもさして江戸中島といひしが後には霊巌島といふ。明暦火災の後寺を深川にうつされて残らず町屋となれり。凡十八町。古来よりありきたりの町はその中五町といへり

佃島　石川島にならびたれどもはなれ島なり漁師のみ住めり

むかし摂津國佃の獵師拜所すといへり今に御膳の魚を奉ること
ありしに白魚の名あるところ後に三國島にことくじゆゑ御供と
いへる意ならんかこの島に住吉神社を祀まるもこの島に若しな摂
津の者なれば結なに住吉を勧請したるなるべし
八代洲河岸　和田倉門より馬場先の江堀ぞこをいへりむかしは
こゝろところに町屋ありしなり慶長年間異國人ヤンヨウス。八千
クワンなどいへる者渡り来て江戸の中にいふせを出し蠻物を高ひ
されよし殺ひなるにやがて御免ありて此所におきて町やしきを
下されしにより沽容子河岸と書るを今八代洲河岸といふ八千
クワンに下されたる町をも直にその名を町名として八官町とよべり
またアンジンと云者もその所見世を出しにて魚鳥を高ひなるが故の

居住の地もやがてその名をよびたり即今の安針町なり鳥あれ人の多く
住めるはこのいたれなり
待乳山　當山の森はむかしは沖より入津の船は目あてなるが前は牛
馬のかよひ路ありて奥州の往還にてうしろは浅草川山の腰を免
ぐりてとさゝれながめよれ絶景の地なりむかしは藤に来まんじうの名物
ありしなり此山の地主は子安明神なり池中の弁才天は粉鶴卿乃
簾中政子江前の不持と云本社に祭るところは聖天宮は齊藤別當
実盛信仰せしといへりしかれども社傳には大同元年の勧請と以ふ
戸田恭光入道茂睡が建るところの碑山上にあり
あられとは夕こえて行人もゐんにまろむれ山にのこす出とは
これは新勅撰集に載る弁基法師の家に

国立国会図書館　タイトル『御江戸図説集覧』　請求記号　貴9-54
ガラス使用

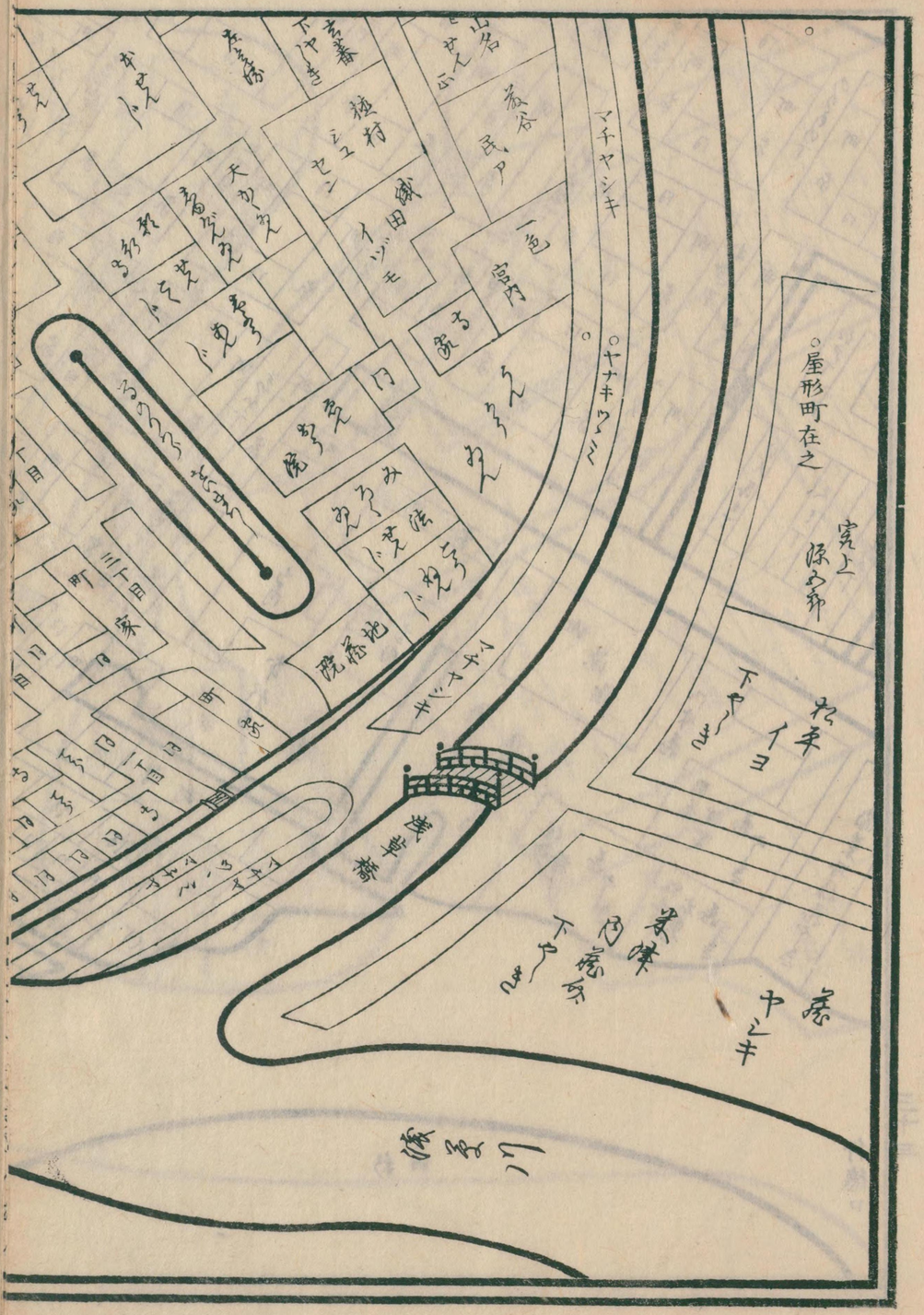
まつち山夕こえられバいや陰のすゝぎ川原にひとりうもねん

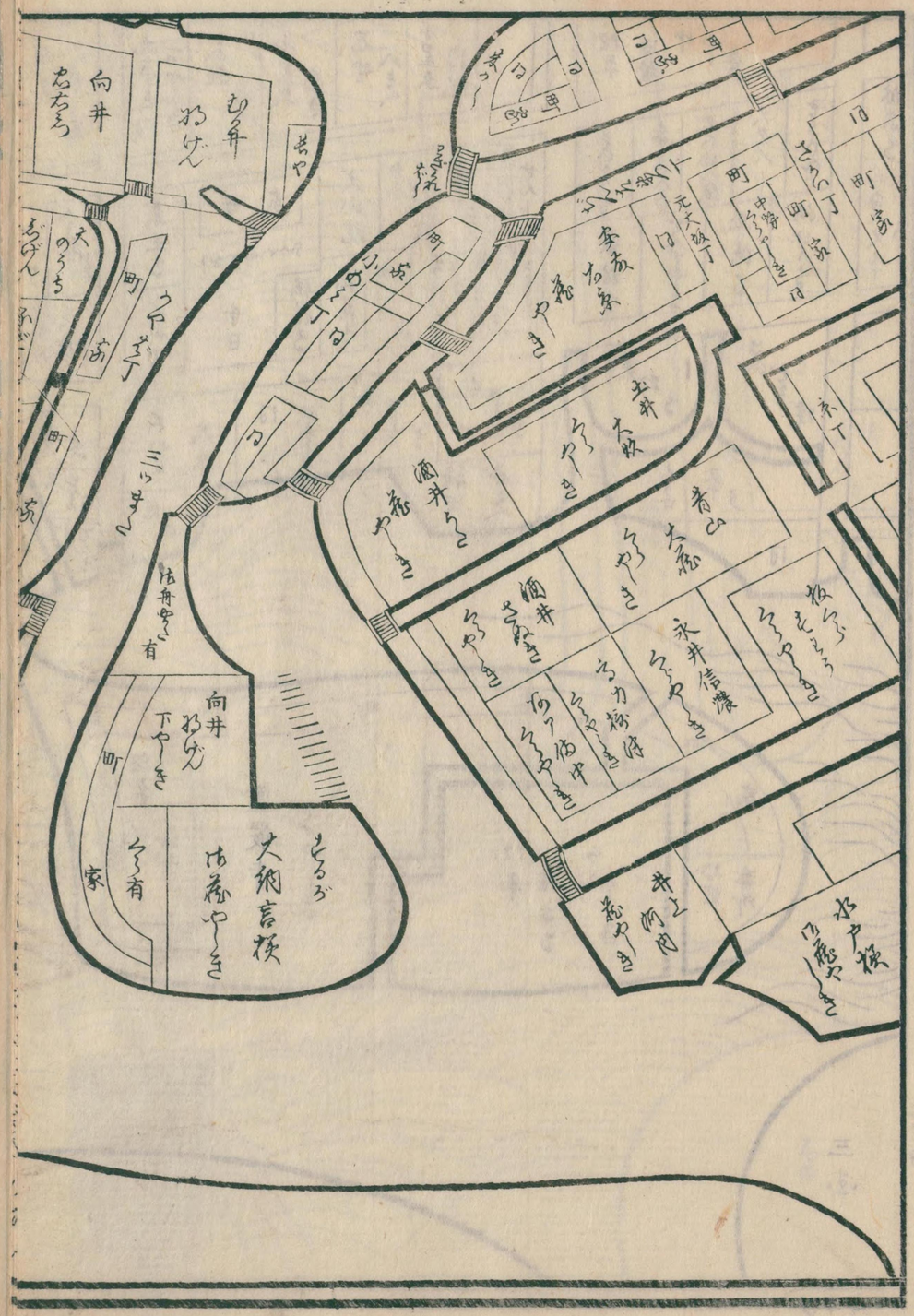
といふ古歌によりてよみるなるべし

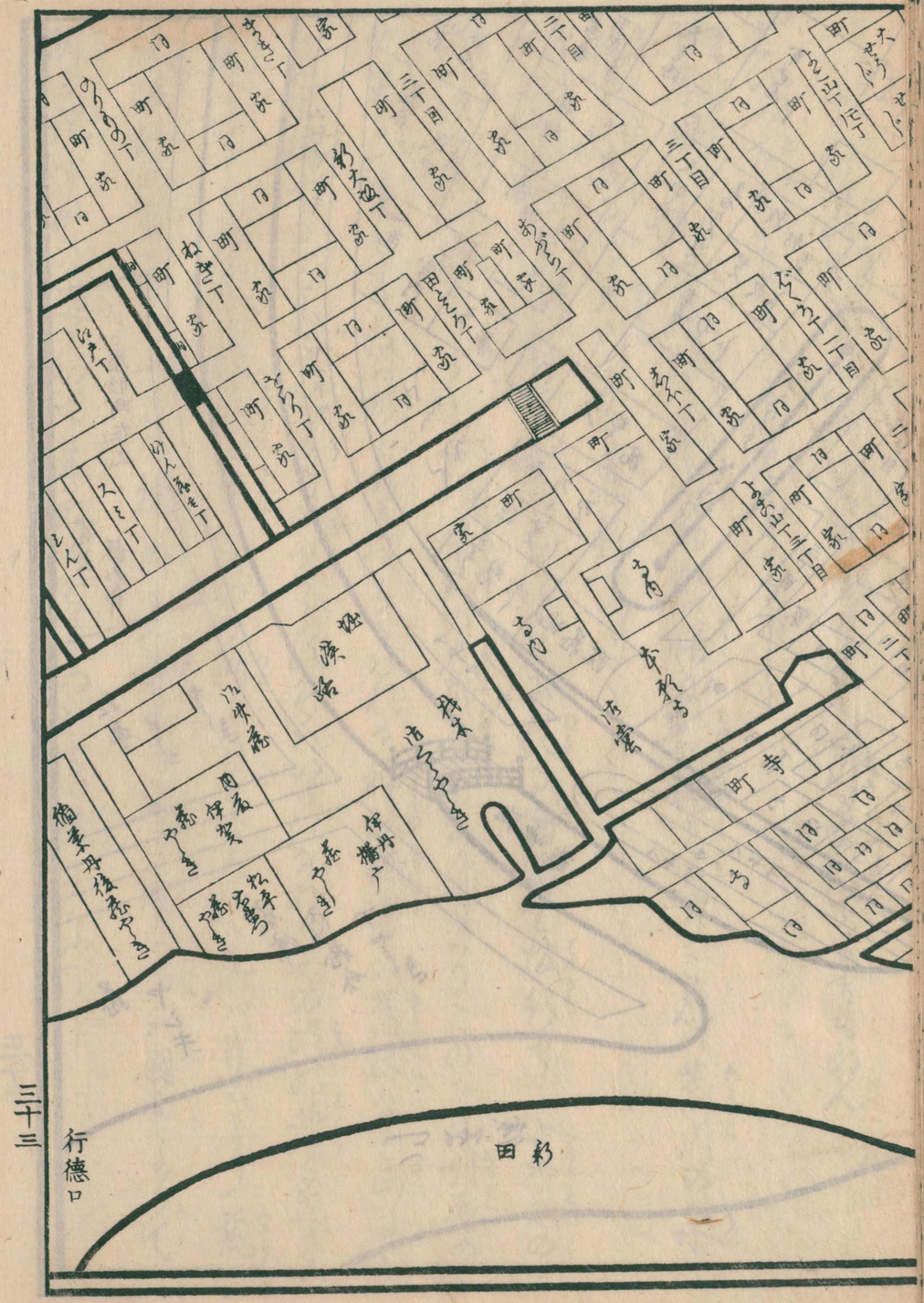
日本堤　おなそ八丁ほどなれバ俗ニ八丁堤といへりこれハ荒川の水除の土手なり大川より蓑輪へつゞく

大江戸の地は沿革を案ずるにこゝに載る繪圖を板行せし寛永の頃ハ次第に盛にして吾邦第一の大都會となりてよりこのかた明暦の火災に一変せし後ハ町々のうたりかゝれる神社佛寺の舊跡などにしく

それと辨するとあたはざるもの少からぬそれハいかになれバその頃は語とせべき書もすくなくとれ民間里人のいひ傳ふるところによれバもとより荒誕浅陋の事のこゝにして採用すべきものなし故に今ハ圖によりて那ゝ記すなり追ゝいて来れるところハその條にいふべし

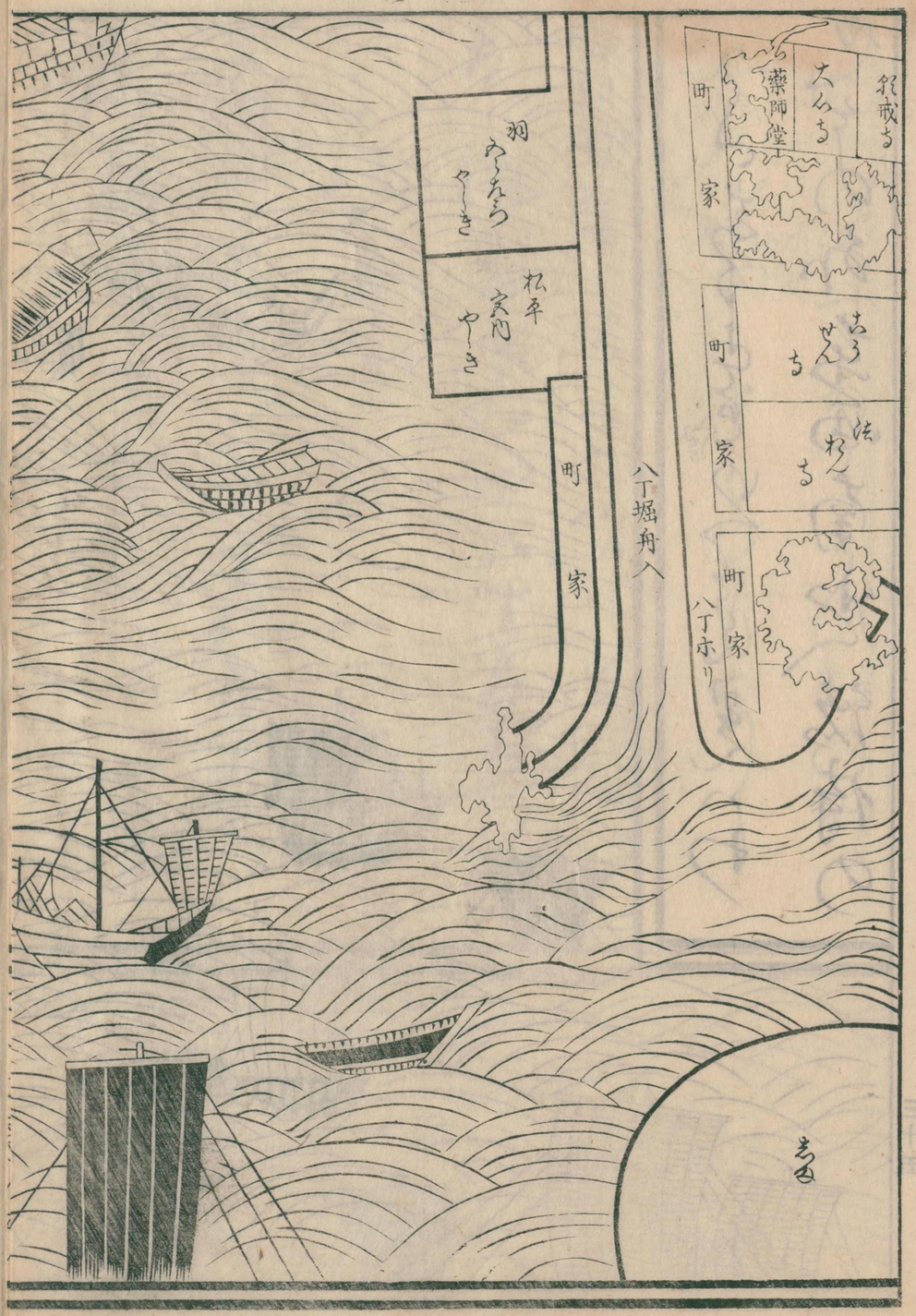


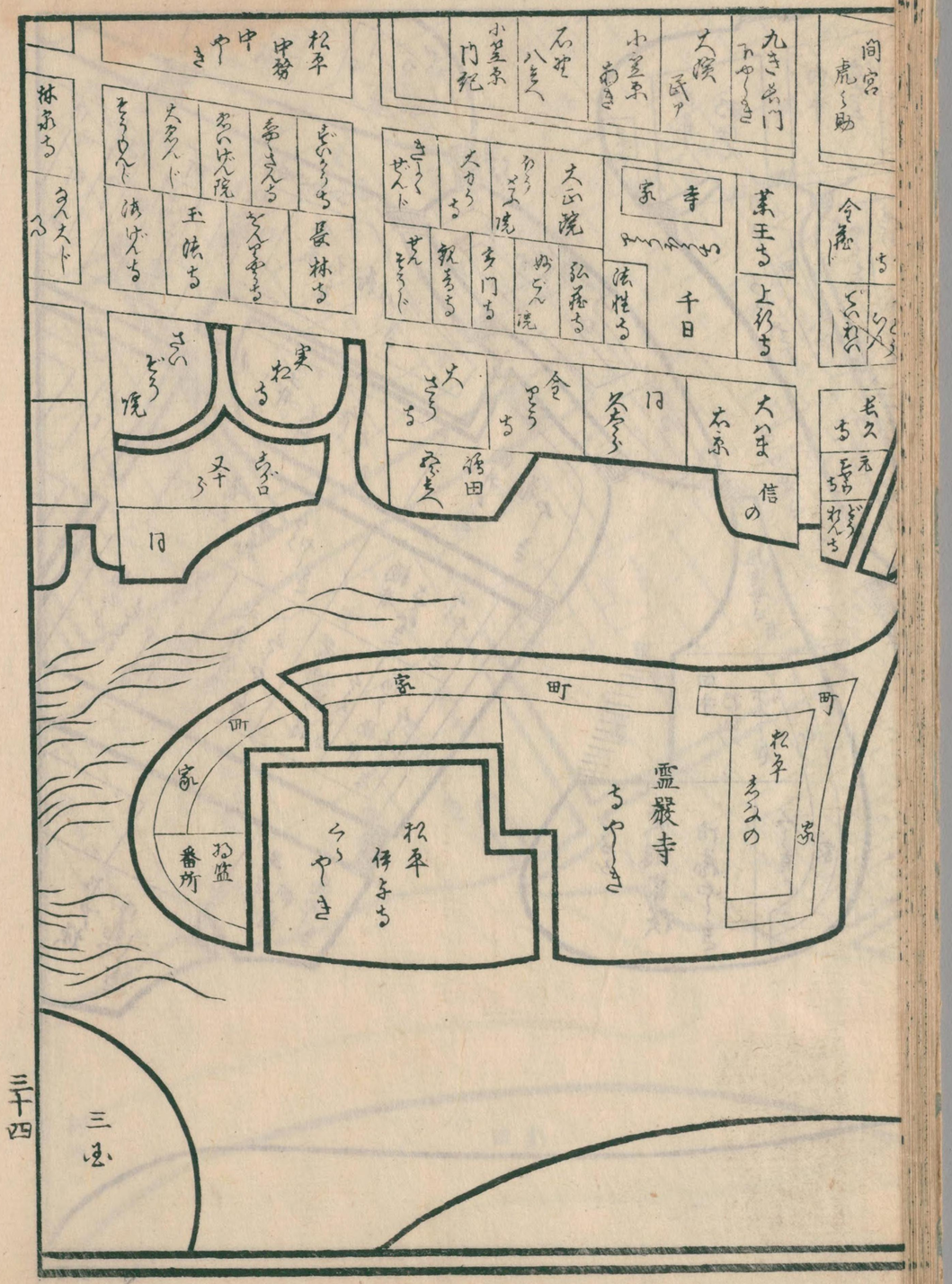




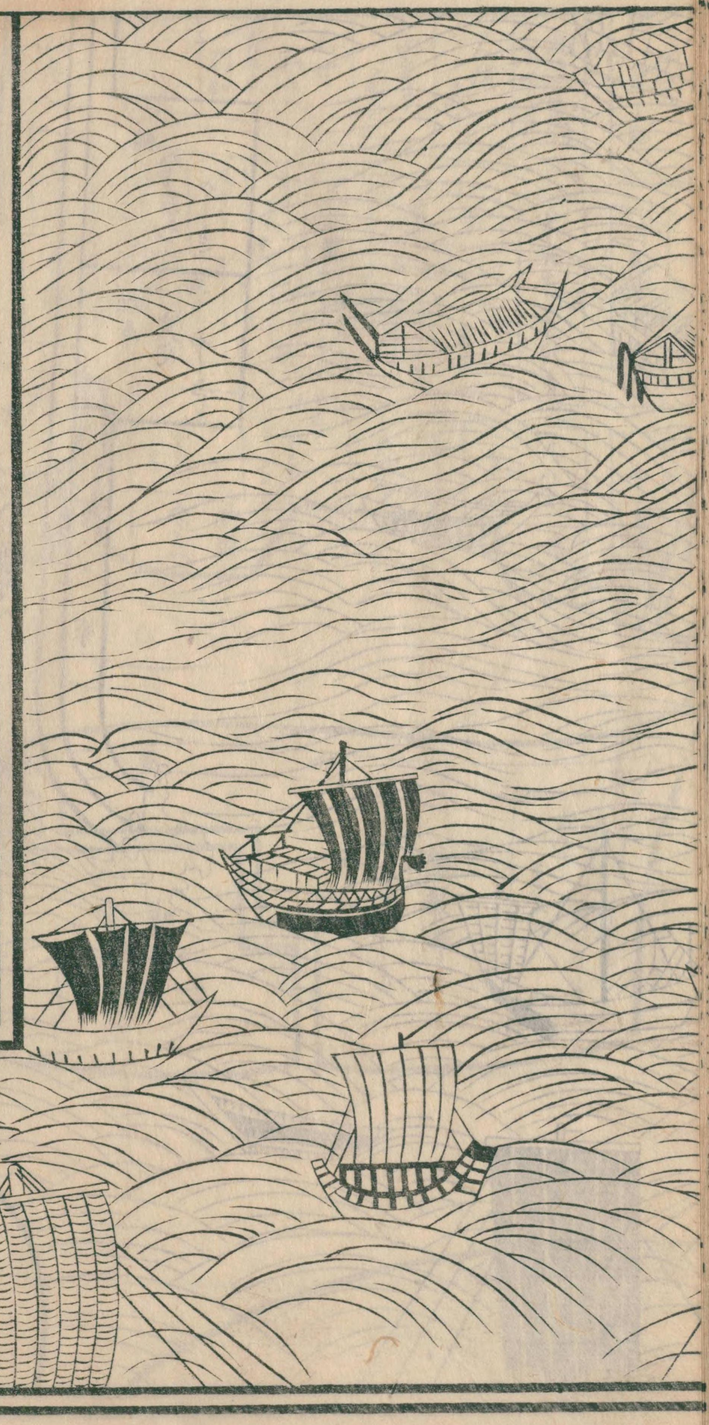
国立国会図書館　タイトル『御江戸図説集覧』 請求記号 貴9-54

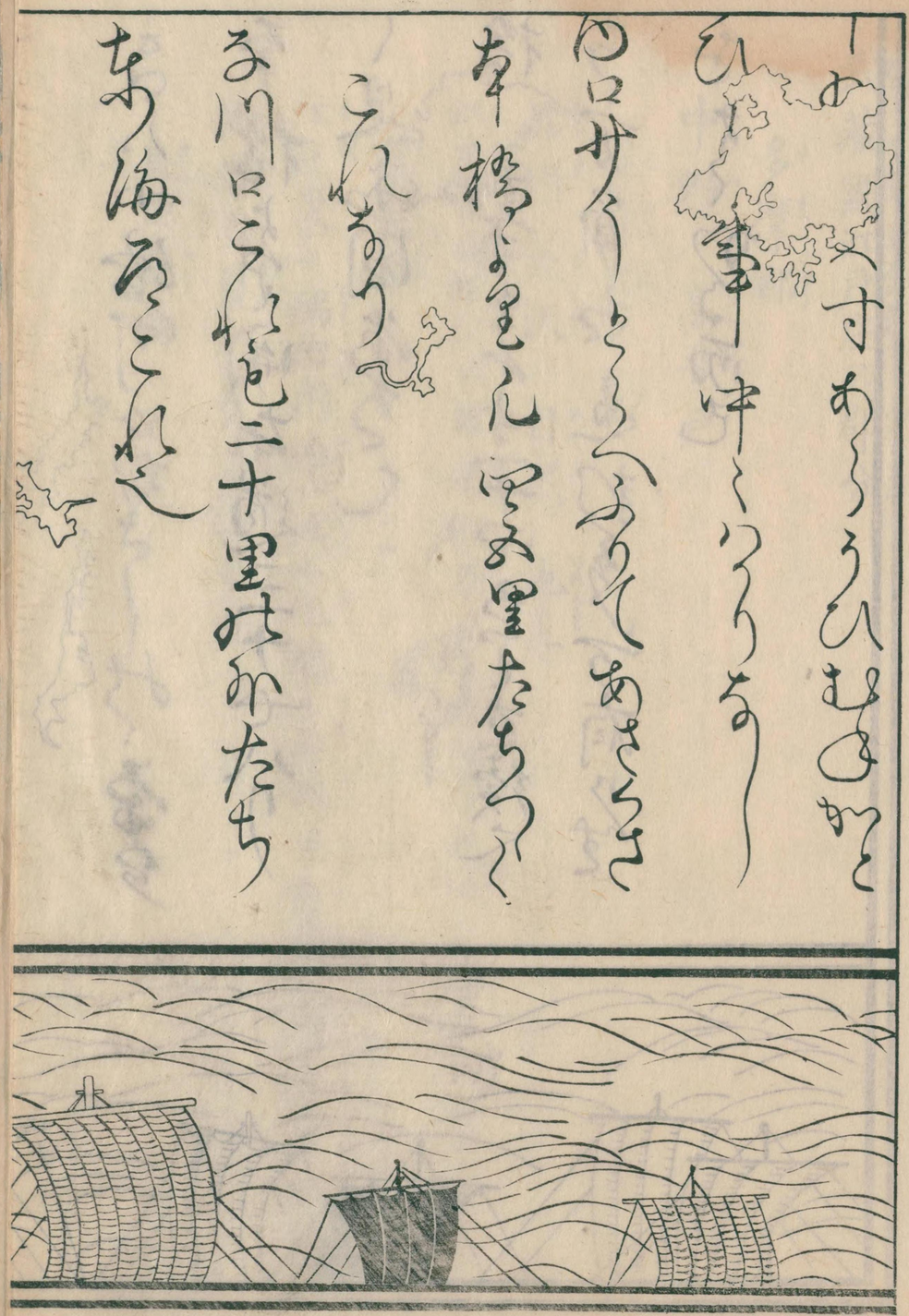
ガラス使用





国立国会図書館　タイトル『御江戸図説集覧』 請求記号 貴9-54
ガラス使用

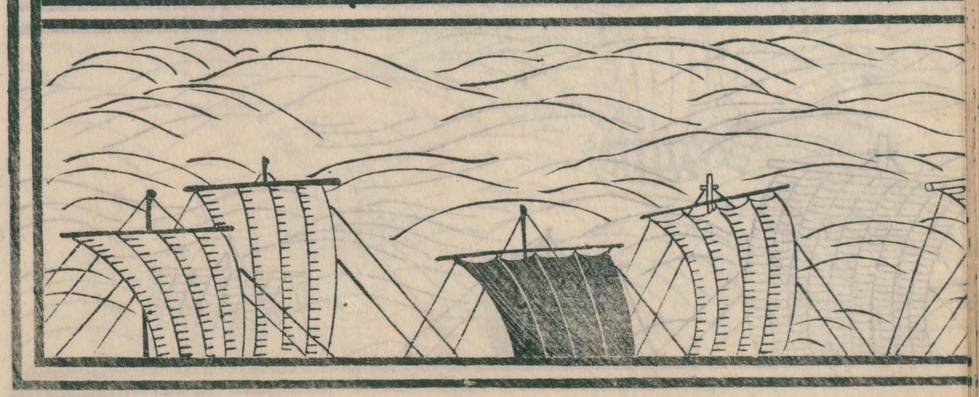




国立国会図書館　タイトル『御江戸図説集覧』　請求記号 貴9-54

ガラス使用

きゝハ小路町口むきしめて原本
本橋より開本道三十七八り
し是小国あるべし。
橋 三寺まで三十四五里立続之
ち万角に連軒多可有之
をたゝかる而已



武藏國江戸庄の郡分

多摩郡

中野　高井戸

荏原郡

品川　北沢　目黒　池上

江戸赤羽根川の流南の方より西の方に廻り海に向

豐島郡

江戸東ハ隅田川西ハ代々木幡ヶ谷鳴子町南ハ増上寺北ハ板

橋練馬荒川より南の方

足立郡

千住

国立国会図書館　タイトル『御江戸図説集覧』　請求記号　貴9-54
ガラス使用

郡界にハ曲直なりて江戸を在のまづかるところに界ありて荒場を
しるに記す

赤羽根川を荏原郡豊島郡の界とすといへども廣尾原豊洋
村は豊島に入る白銀目黒ハ荏原郡なり青山宮益町豊洋郡に
て用水を隔て上目黒は荏原郡に属せすべて渋谷郷大方ハ
豊島なり上中下北洋を荏原郡の限りとし高井戸は多摩
郡なり柏木鳴子町ハ豊島にて中野村は多摩に属す比企
高麗大里横見男衾児玉等は國の小によりてかのし一二ヶ村を
ハ六七ヶ村ならぬまて皆小村なり

一此絵畫大きさ志るしとのへども是ハ
つゝ所なり也その外東西南北法侍の
法屋敷町 寸あらはひむまかと
れちなるひし 事中にはりなし
一東ハせん志ゆ口サうとくへふりてあさくさ
の外まで日本橋より里九四五里なりて
奥州海道これなり
一南ハ志ゆ志ゆ川口これを二十里北外れち
法くく也東海道これ之
一西ハ町つゝきハ小路町口むきし所ゆ原の
法くく近ハ日本橋より里開東道三十七八り
たち法くく是 小國海道之
一小ハ神田板橋 王寺まで三十四五里立續之
右之道ともち方角相違粉多つ有に堂
作編ゆ賢をたゞかる而已

此文ハ已に載る寛永圖に
志るしところなり本文は
きれぐしまくよみやこ
からみばこに縮字し
て全文を志るしてくれ
やまとしむ

貴 9
54

御江戸圖説集覽

貳編 三編 追〻近刻

右次編は寛文延宝に至り坊街の変革をことごとく訂し其頃の諸説をふるくく種々結書に授りて出きたれば年歴を経るに志るさがひ大江戸の繁茂日々にさらんかる事を説ひてゐる由君寧に國恩の難有を志らしむる也なれば四方の諸君子追〻次編を待ちて一覧を希はまん

嘉永六癸丑
初春開版

橋本兼次郎 原稿繪圖
山崎久 作輯説
宮城喜三郎 淨書
江川仙太郎 彫刻

江都書肆 小石川傳通院前 青山清吉

国立国会図書館 タイトル『御江戸図説集覧』 請求記号 貴9-54
ガラス使用

国立国会図書館　　タイトル『御江戸図説集覧』　請求記号　貴9-54

ガラス使用